萬葉和歌集 十

857
47

取扱注意
帙入

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47

ガラス使用

857-47

萬葉集卷第十

長三首
短五百廿二首
旋頭歌四首

合五百三十九首

春雜歌

相聞ノ詮ト又改ニ雜歌ノ立

雜歌七首
詠霞三首
詠花二十首
詠雨一首
詠煙一首
歎舊二首
詠鳥二十四首
詠柳八首
詠月三首
詠川一首
野遊四首
懽逢一首

契詠霞十一首詠鳥十三首ノ

帝國圖書館

萬葉集卷十

「哥ニ至リテ雜ノ哥ト題セレト悠標ニ春雜哥ト有テ別ニ題ナクテ七首アレハ目錄ノ作ル人コニ雜哥七首ト云ハ疑ハクハ春相聞モ終ノ問答十一首迄ノ悠標ニ云ヘル春雜哥ト云ヲ云ヒカフシメタレト今七首ト云ヘルハ悠カリテ則目ト云ヘル雜哥ノ下ノ雜哥四首冬相聞ノ下ニ相聞二首唯之今ヨリ考覽哉ト云テニカフシメタレト今七首ト云ヘルハ相聞七首ト錄セリ秋相聞ノト相聞冬雜哥ノ七首ハ皆霞ノ哥ノ下ニ詠霞ト云処ニ考ヘソワテハ改ムヘシ

旋頭歌二首
春相聞
相聞七首
寄花九首
寄霞六首
寄草三首
寄雲一首
悲別一首
譬喩歌一首
寄鳥二首
寄霜一首
寄雨四首
寄松一首
贈蘰一首
問答十一首

夏雜歌
詠鳥二十七首 或本短哥一首 宜又哥廿六首
詠蟬一首
詠花十首
詠榛一首
譬喩一首
問答二首
夏相聞
寄鳥三首
寄蟬一首
寄草四首
寄花七首
寄露一首
寄目一首 目宜

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

秋雜歌

七夕九十八首 宴此内二首短歌

詠鴈三首

詠鹿鳴十六首

詠蟋蟀三首

詠鳥二首

詠山一首

詠水田三首

詠花三十四首

遊覧十首

詠蟬一首

詠蝦五首

詠露九首

詠黄葉四十一首

詠河一首

詠月七首

詠芳(カヲリ)一首

詠霜一首

秋相聞

相聞五首

寄露八首

寄雨二首

寄蝦一首

詠風三首

詠雨四首

寄水田八首

寄風二首

寄蟋蟀一首

寄鴈一首

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47

ガラス使用

寄鹿二首
寄草一首
寄山一首
寄月三首
寄衣一首
譬喻歌一首
冬雜歌
雜歌四首
寄鶴一首
寄花二十三首
寄黄葉三首
寄夜三首
問答四首
旋頭歌二首
詠雪九首

詠花五首
詠黄葉一首
冬相聞
相聞二首
寄霜一首
寄花一首
詠露一首
詠月一首
寄露一首
寄雪十二首
寄夜一首

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

新勅春上　ヨミ人知

流古雑上　人丸
ハレヌオモヒハナレナマ
ルヤハ

凡春上　人丸

春雑歌

久方之（ヒサカタノ）天芳山（アメノカグヤマ）此夕霞霏霺（コノユフヘカスミタナビク）春立下（ハルタツラレモ）
（三之日タノ字ヲ雖アケナト云ハ立春ノ詞ニカケル）

巻向之（マキムクノ）檜原丹立流（ヒハラニタテル）春霞欝之（ハルカスミクル）
（赤人集家持集マキモクノ恋ノ歌ニ）（ムホニシ）（ハレヌ）

思者名積米八（オモヒハナヅミケメヤ）
（四ノ四十ノ思ヒノ終ニハ賄ニ）

方（モ）
（赤人集）
霞ノ立ナハレヌヲノ思ヒニヨセタリ）

イニシヘノヒトノ（ウエケムスギガエニカスミタナビクハルハ）
（秋ハ久シク有物ナハ一ト云ヘ）

古人之殖兼枚枝霞霏霺春者（ハルサレハ）
（家持集コラガテヲマキモクヤニ）（春ニナリ来レハ）

来（キ）
（妹カキラメクラニ久ト云ニツク）

子等我手乎巻向山丹春去者（コノハシヒヌキテカスミタナヒク）
（常盤木ハトヒテラントテニセヌ）

霺
（赤人集ビ）

カゲロフノユフサリクレハ（カゲロハタタ夕ニ出テ虫ニ）
（庭）

玉蜻夕去来者佐豆人之弓月我高荷霞霏霺（サツヒトノユヅキカタケニカスミタナビク）
（庭）（赤人集）（大和ヘモトラ槻ノ枯レテカリ人ヘ）

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47

ガラス使用

今朝去而明日者来年等云子鹿丹且妻山丹
カスミタナヒク　コラカナニ　ツマヤマニ
霞霏霺
引
坠霞和歌也三文曰二首共二定テ君カ来ニテアラン乍ラ先霞ノ字ヲ置ケルハ心ヲ得ス
右柿本朝臣人麿歌集出
詠鳥
打霏春立奴良志吾門之柳乃字禮爾鶯鳴都
梅花開有嵒邊爾家居者乏毛不有鶯之音

春霞流共爾青柳之枝啄持而鶯鳴毛
吾瀬子乎莫越山能喚子鳥君喚變瀬夜之不
深刀爾
朝井代爾来鳴泉鳥汝谷文君丹戀八時不終
鴬
冬隠春去来之足比木乃山二文野二文鶯鳴
裳
紫之根延横野之春野庭君乎懸菅鶯名雲

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

春之去者妻乎求等鶯之
カスガナルハガヒノヤニユ
春日有羽買之山從猿帆之内敞鳴往成者孰
ヨブコトリ
喚子鳥
コタヘヌニナヨヒトヨセソヨフコトリサホノヤニベヲノホリクタリ
不答爾勿喚動曽喚子鳥佐保乃山邊乎上下
二
アツサユミハルヤマチカクイヘ
梓弓春山近家居之續而聞良牟鶯之音
ウチナビキハルサリクレハ
打靡春去來者小竹之
末丹尾羽打觸而鶯鳴

アサキリニ
朝霧爾之怒怒爾所沾而喚子鳥三船山從喧
ワタルミユ
渡所見
ウチナビキハルサリクレハ
打靡春去來者然爲鰒天雲霧相雪者零管
ウメノハナフリサケユキヲ
梅花零覆雪乎裳持君爾令見跡者消管
ウメノハナサキチリスキヌ
梅花咲落過奴。然爲鰒白雪庭爾零重管
イマサラニユキフラメヤモカケロフノ
今更雪零目八方蜻火之燎留春部常成西物
カスミタナヒキハルサリニケリ
風交雪者零乍然爲鰒霞田菜引春去爾來
ハルハキニケリ

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

新古春　人丸

ヤマノハニ　ウクヒスナキテ　ウチナビキ　ハルトオモヘド　ユキフリニケリ

山際爾鶯喧而打靡春跡雖念雪落布沼

後撰春上　ヨミ人不知
エゴ女ナラン　袖中抄　不入分明
神代六帖ホニ恵慶ノ外ニ廿余出タリ
但百會遺

ミヤマニハ　フリオケル　ユキシ　カセノ　ムタコトニ　チルラシ　ハルニハアレ

峯上爾零置雪師風之共此間散良思春者雖

有

右一首詠波山作

キミカタメ　ヤマタノサハニ　エグ　ツムトテ　ユキゲノミツニ　モノスソヌレシ

爲君山田之澤恵具採跡雪消之水爾裳裾所

又

詞花集歌不知曽称好忠雪キエヌクノカナキツムキニ春サヘ人ヌ三山ヘノ里

沾

ウメカエニ　ナキテ　ウツロフ　ウクヒスノ　ハネシロタヘニ　アハユキゾフル

梅枝爾鳴而移徙鶯之翼白妙爾沫雪曽落

ヤマタカミ　フリクルユキヲ　ウメノハナ　チリカモクルト　キモヒツルカモ

山高三零來雪乎梅花落鴨來跡念鶴鴨

新勅春上　三条右大臣ニモ入

拾春　人丸

弟盛集足引ノ山タヲクルシケニ若菜ツムヒト

シキシマノ　ヤマトノクニニ　アケクレバ　カスミタナビク　ハルノキタベニ

一云梅花開香裳落跡

ユキヲオキテ　ウメヲナコヒソ　アシヒキノ　ヤマカタビラ　ハルサレバ

除雪而梅莫戀足曳之山片就而家居爲流君

ウメノハナ　サキカモチルト　ウグヒスノ　ケフノヨロシサ　ハルニシアラネバ

右二首問答

千載　タマクシケ山ワタクチテ立鳥ノ初音ヲトニ聞アセ江カナ　俊頼
六十九方里九
おな九谷ヲメグリテ
ウグヒスノ　ハツネヲキヽテ　ヒサカタノ　アマツソラナル　コヽチコソスレ

詠霞

キノフ　コソトシハクレシ　カ　ハルカスミカスカノヤマニ　ハヤタチニケリ

昨日社年者極之賀春霞春日山爾速立爾來

フユスキテハルハキヌラシ　アサヒサスカスガノヤマニ　カスミタナヒク

寒過暖來良思朝烏指滓鹿能山爾霞輕引

ウクヒスノ　ハルニナルラシ　カスカニモ　ヤマカスミタナヒク　メニミレドモ

鶯之春成良思春日山霞棚引夜日見侶

（元春月ノ歌ト云同ホトヽキスハ四月ニテハラノカ四月ト云カ如シ）

詠柳

催馬尓吾妹トリヤコイシナタノメカケムカコルマデモ続古春上　三元ノ手ニモエ出ニケリ

新勅春上　赤人　ヤマモトニコカヤナキ

是モエノ寿ト同格カ

続後撰春上　家持

シモカレノフユノヤナキハ　ミルヒトノ　カツラニスベクモエニケルカモ

霜干冬柳者見人之縵可為目生來鴨

アサミトリソメカケタリト　ミルマテニ　ハルノヤナキハ　モエニケルカモ

浅緑染懸有跡見左右二　春楊者目生來鴨

ヤマノハニ　ユキハフリツヽシカスガニ　コノカハヤナキハ　モエニケルカモ

山際爾雪者零管然為我二　此河楊波毛延爾ケルカモ

家留可聞

源氏ニ氷敷水ノケシキヲ又ハ雪五川ノ部ニイヒアヒ川ヲトヨミ是カ

ヤマノハノ　ユキノキ者宿　エサルヌヲ　ナカルヽカハニ　アクカハノソヘレハ　モエニケルカモ

山際之雪不消有乎氷敷合川之副者目生來鴨

家持集猿丸集

アサナサナワカミルヤナキウクヒスノキ　ナクヘキモリニ　ハヤナレ

朝旦吾見柳鶯之来居而應鳴森爾早奈禮

アヲヤキノ　イトノ　ホソサヲハルカゼニ　ミタレスイ糸要ニ　ムコ

青柳之絲乃細紗春風爾不亂伊間爾令視子

モカナ　汝中

裳欲得

モ、レ　キノオホミヤヒトノ　カツラナルレバリヤナキハ　ミレド　アカヌ　カモ

百礒城大宮人之縵有垂柳者雖見不飽鴨

ウタノハナトリモチニレハ　ワカヤツノ　トノ　ヤトニ　チルラム

歌花取持見者吾屋前之柳乃眉師所念可聞

モテ河　妻ニ文トフ

詠花

ウクヒスノコ　ツタフウメノ　ウツロヘハ　サクラノハナノ　トキカタマケヌ

鶯之木傳梅乃移者櫻花之時片設奴

サクラハナトキハ　スキ子　ドミルヒトノ　コヒノサカリト　イヘミ申　チルラム

櫻花時者雖不過見人之戀盛常今之将落

ワカカサスヤナキノイトヲ　フキミタルカゼニ　イモカ　ウメノ　チルラム

我刺柳絲乎吹亂風爾加妹之梅乃散覧

トシノハニ　サセル　ウメハ　サケドモウツセミノ　ヨノヒトキミニ　ハル　ナカリケリ

毎年梅者開友空蟬之世人君羊蹄春無有來

ウツタヘニ　トリハ　ハヽ子　ドミレハヘテモラクホシキ　ウメノハナカモ

打細爾鳥者雖不嘆縄延守巻欲寸梅花鴨

ヒトヘニ

丸春中　人丸　カサヽレル

丸春中　人丸

カサス　頭刺

羊蹄ハシトト云艸　後方羊蹄

日本紀ニ蝦夷地名崇神紀ニ始目手ヲ受蝦夷ヲ言自登ヲ御諸山ニ頭縄編ヲ四方ニ逐食菜産

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47

ガラス使用

久末ハマ久末ナトヨテ宿ニ久シノ有木ノ一木ニカキルヘカラス

玉春下ヨミ人不知ヤマヘヲテヌスムカモ

師ホトヲノハ助ノホハ穂ト同シ最ノ字ト通ス和名歌抄

新春正　赤人　　風春中　家持

馬並而高山部乎白妙丹　令豊色有者梅花鴨
ウマナメテタカキヤマヘヲシロタヘニホハレタルハウメノハナカモ

花咲而實者不成登雖長氣　所念鴨山振之花
ハナサキテミハナラヌトモナガキケニオモホユルカモヤマフキノハナ

能登河之水底并爾光及爾　三笠之山者咲来
ノトカハノミナソコサヘニテルマデニミカサ山ヲモトホシ

鴨
カモ

ユキミレハイマタフユナリレカスカニハルカスミタチウメハチリツヽ

見雪者未冬有然爲饗春霞立梅者散乍
コシサキレヒサギイマサクイツラニツチニヤオチムミルヒトナレニ

去年咲之久木今開徒土哉將墮見人名四二
アレヒキノヤマソマテラスサクラハナコノハルサメニチリユカムカモ

足日木之山間照櫻花是春雨爾散去鴨
ウチナビキハルサリクラレヤマノハノヒカリノウチニサキレハナ

打靡春避來之山際最木未之咲往見者
サキユクミレハ

（最ノ字ト通ス和名歌抄）

（久末ハマ久末ナトヨテ宿ニ久シノ有木ノ一木ニカキルヘカラス）

（玉春下ヨミ人不知ヤマヘヲテヌスムカモ）

（師ホトヲノハ助ノホハ穂ト同シ）

（新春正　赤人　風春中　家持）

キヽスナクタカニトリヘニサクラハナチリナカラフルミルヒトモカモ

春鴈鳴高圓邊丹櫻花散流歷見人毛我裳
アホヤマノサヲキノハナハケフチリスキヌヘクカモナリヽガラムミルヒトナシ

阿保山之佐宿木花者今日毛鴨散亂見人無
二サナキハ真木ナトヨテヨキト云同ノ諸木ノ花ヲ云ヤ是モカヽ

二

カハツナクヨヒノヽカハノ之宿タキノウヘノツヽシハナソ

川津鳴吉野河之瀧上乃馬酔之花魯置末勿
（マヽニヽ如何）（心ヽテ手オキ推キ）

ケリ
（マケテヽ捨遣吹風ニ如ヒカヨテ足曳ノ山ノ桜ハホコロヒケリ）

家里
ハルサメハイタクナフリソサクラハナイヽタヽクヲヽミモチラヽクヲヽミモ

春雨者甚勿零櫻花未見爾散巻惜裳
アラソヒカヲテワカヤトノサクラノハナハサキソメニ

春雨爾相爭不勝而吾屋前之櫻花者開始爾
（ヲヽ如何）（ヲヽ兒名云歟如何）

ヨキ可用

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

凡春中 九首
ヒラケルハ十九首ノ誤リ

春十九首古今和注月夜三ヨス人マタ九カヤリ柄モアラケレワヒアヒナム
江談三云嵯峨天王時無雪春ト云落居世間ニ多ク作也筆談云カカノハヨカラマレト天王之御ニ左右皆所為ヘトカ仰之テ罪ヲカムルトカルノ所堂中云更不可候ノ人才況ノ道然者自今後可被申之仍天王尤可理ト然者此文ヨリ以下ノ事ヲ皆給一伏三仰ノ歌人待宵晴陰而兼偏ヨリ後如此事カトヨリ私云春之万葉第十謝月云春霞松高マト有田菜引今日ノ暮三伏一向不織照良此四字不讀ヘシ又云将ヒ未中一伏三起之カサレ君ニ戸ヒヌナキヤメレ是等ノ一伏三起ノヨミ尽案十一

詠月

春去者散巻惜櫻花厂時者不咲含而毛欲得（梅阿類歌ナレバレハ　ツボニテモガ木モ）
三ワタセハ　カスカノノヘニ　カスミタチサキニホルハ　サクラハナカモ

見渡者春日之野邊霞立開艶者櫻花鴨
イツレ助カモコノヨ　アケム　ウグヒスノ　三ム

何時鴨此夜之将明鬻之古歌一伏一向夜不織照良
ツタヒチラスウメノハナ

詠梅

春去者紀之許能暮之夕月夜鬱束無裳山陰
ハルサレハ　キノ木　コノ闇ノ　クレノユフヅクヨ　オホツカナシレモ　ヤマカケ

春去者木陰多暮月夜
ハルサレハ　コノ木　クレノユフヅクヨ　カクレキホキユフツクヨ

雨指天一云春去者木陰多暮月夜
ニシテ

（此首心得カタシ才三伏管根ノ根モコノ一ト云ニ伏三向ト昏ヤウ表裏メンクトヨミコロ得カタシ三伏一向一伏三向ト昏ヤウ表裏メンクトヨミコロ対ヘ三伏心ヲ心ヲ付ヘシ三伏心ヲ心ヲ付ヘシ三伏心ヲ心ヲ付ヘシ

春去者散巻惜櫻花斤時者不咲含而毛欲得

見渡者春日之野邊霞立開艶者櫻花鴨

何時鴨此夜之将明鶯之木傳落梅花将見

詠月

春霞田菜引今日之暮三伏一向夜不織照良

武高松之野爾

春去者紀之許能暮之夕月夜欝束無裳山陰

一云春去者木陰多暮月夜

詠雨

春之雨爾有来物乎立隠妹之家道爾此日晩都

詠河

今往而誉物爾毛我明日香川春雨零而瀧津湍音乎

待

朝霞春日之晩者従木間移歴月乎何時可将

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

延喜式世九 苔ハ蒿

王雜二日三人名

和泉式ア 今テモヨンヘニ出ツル

王春上 イキシケハ アナム

詠煙

カスカノニ タツタツミ ユヲトメラ シ助ハルノ、

春日野爾煙立所見嬬等四 春野之 菟芽子

ツミテニラシモ 宛宜 汲ム八廿二 ギ

採而煮良思文 (則小萩ヨメガ分キ)

野遊

カスガノ、アサチカクニ オモフトチアブフヲハクスラレメヤモ

春日野之淺茅之上爾念共 遊今日志方八方 モ

ハルガスミタツカスガノヲ ユキカヘリワレハ アヒミムイヤトシノハニ

春霞立春日野乎往還吾者相見彌年之黄土

ハルノ、ニ コ、ロヤラム ト オモフトチキタリシ ケフハクレズモ アラ

春野爾意將述跡念共來之今日者不晩毛荒

ヌカ ノベント 赤人集

粳 糠中

暫春上 赤人カクラヌヤメテモクレツ 朗詠日本化 オホラテ

尚昏人足貴日器是要新

モ、レキノヰホミヤヒトハ イトニアレヤ

百磯城之大宮人者暇有也 梅乎挿頭而此間

(櫻カサシテトメ赤人ノ寄トセリ赤人父集ニ先

集有

歎舊

フユスキテハルニキ ヌレハトレツキハ アラタシレトモヒト ウメヲ カサシ テコ、ニ

寒過暖來者年月者雖新有人者舊去

モノニナハ アタラシキヨシタ、ヒトハ フリヌルノミゾヨロシカルヘキ

物者新吉唯人者舊之應宜

者皆俗本 恐脈注此手非春歌因上歌載之乎 ノミノ字肌乎

懽逢

スミノエノ サトヲエ ユキカバ ハルハナノ トモ メヅラシキ 往 キ師 キミニアヘルカモ

住吉之里得之鹿齒春花乃益希見君相有香

聞

(長流ヌヨシノ里トヨム也名所ニ非ス古六ニ有カホシ住ヨシ里ノアレマクラ」モトヨメルハ久迹之京ヘイクニテモ里ノ憂貴ミテヨキヲ住吉ノ里トゾヘト

(出雲里遠ミテトノミ、オ三モコヒヨミ

新午載春上人九カスカナル三笠山ニ月ノ出ヌサケルサクラノ色モミユス

續千載雜体ヨミ人不知

旋頭歌

カスガナル三カサノ山ニ　ヤマニ　ツキモ　イテヌカ（添下郡ニアリ）　春日在三笠乃山爾月母出奴可（キ）

サケル　サクラノ　ハナノ　ミルベク　開有櫻之花乃可見

シラユキノ　トコシクフユハ　スギニケラシ（ニ世ハ）　白雪之常敷冬者過去家良思（ク）

ヘノ　ウクヒスナクモ　遠之鶯鳴烏（一和名ニ唐ウグヒスト遠ストセリシカハ助語ニ還ヘシトツカフ時ハ音ヲ取ソトツカフ時ハ訓ヲ取ル）

譬喩歌

ワカヤドノ　ケモ、ノ　シタニ　ツキヨ　サシレ（ヅ）　吾屋前之毛桃（七ノ十五）之下爾月夜指下（ウケ）　心吉（轉タテコノ）　莧（カマナコトモミノ）　揩（ミ）　須（女ニ喩ル歟）

者（コロ）

春相聞

カスカノニ　イヌルウクヒスナキワタレカヘリ（ミ）ス（モ）ホトオモヒ（笛ヲ數ル脇里ニ出ル寫春日野ヘ帰ル時妻ニモワカレ人丸春山の友鶯も帰りけらうらまれますれ）　春日野犬（ニ）鶯鳴別春益間思（ヒ）御吾（君ノ誤ヘル）

フユゴモリハルサクハナヌリモテテチ　ヘノカキリモコヒワタルカモ　冬隱春開花（カ）手折（平）坂千遍限（手匠）戀渡鴨（春ニテハ花ヒラクニ秋思ヒハヒラケタトヘリ）

ハルヤマノキリニマドヘルタクヒスモワレニマサリテモノオモハメヤ　春山霧惑在鶯我益物念哉

イデミルニムカヒノヲカノモトヒクサキタルハナノナラズバ（実ニ一逢ヲ実ニタトヘタリ）　出見向崗本繁開在花不成（カ）不止

カスミタツハルノナガヒヲコヒクラシヨノフケユケハイモアハ（カ）ヌカモ　霞發春永日戀暮夜深去妹相（ム）鴨

ハルサレハマツサキクサノサキク　アヌノイモアハムトコソワギモコ　春去先三枝幸命在後相（ム）莫（ナ）戀吾妹

ハルサレハタリヤナキノトヲヲミモイモガコトニノリニケルカモ（タムナリ）　春去爲垂柳十緒妹心乘在（シ）鴨（垂日本紀人名シダル）

此哥夫木抄ニ當ノ下ニ人丸トテ出セリ

五ノ句ノ文字集寫

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47

ガラス使用

右柿本朝臣人麿歌集出

寄鳥　一首字落ヌレタリ柳ノ寄ハタノホトリ八

春之在者伯勞鳥之草具吉雖不所見吾者見
ハルサレハ　モズ　クサグ　エズ　ワレハ

將遣君之當婆　波乎
ヤラム　キミカ　アタリハ

容鳥之間無數鳴春野之草根之繁戀毛爲鴨
カホドリノ　ナクコエバナクハルノノ　クサ子ノ　シゲキコヒモ　スルカモ

寄花

春去者宇乃花具多思吾越之妹我垣間者荒
ハルサレハ　ウノ　ハナ　ワガコエシ　イモガ　カキマ　ハ

來鴨

寄鳥

梅花咲散苑爾鶯吾將去君之使乎庭待香花光
ウメノハナサキチルソノニ　ウグヒスカ　キミカ　ツカヒヲ　マチカ　ハナ

藤浪咲春野爾蔓葛下夜之戀者久雲在
フヂナミサケルハルノニ　ハフクズノ　シタヨコヒハ　ヒサシクモアリ

春野爾霞棚引咲花之如是成二手爾不逢君
ハルノニ　カスミタナビキ　サクハナノ　カクシツツニテ　アハヌキミカモ

可母

吾瀬子爾吾戀良久者奥山之馬酔花之今盛
ワガセコニ　ワガコフラクハ　オクヤマノ　マヨヒノハナノ　イマサカリナリ

有

女夫ヲコヒテヨメル

梅花四垂柳爾折雜花爾供養者君爾相可毛
ウメノハナ　シダリヤナギニ　ヲリマジヘ　ソノハナニ　タムケテ　キミニ　アハムカモ

雉部思咲野爾生白管自不知事以所言之吾
キヂシノサケル　ヌノニオフル　シラスゲノ　シラズテイヘル　コトモテイハレ　ワガ

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

皆 君立三日カリ名ヲ立テルヘシ
タメノハナワレハ チラサジ アヲニヨシナ
梅花吾者不令落青丹吉平城之人來管見之
在阪子
根 三ルカミ 糸ト称ト通ハス日記ニ分ナラモカナトヨムヘシ歌宗伝密秘ノ詞ニ
カムヤマトキモ ナクコフラク
如是有者何如殖兼山振乃止時喪哭戀良啓
オモヘハ 山ヲキリサラケタリ
念者

寄霜 才ミ水空
ハルサレハ 三 クサノウヘニ キクシモノ
春去者水草之上爾置霜之消乍毛我者戀度
カヒ 末木才四ノ家成ノ季谷山寒氷解 従三位頼政春ナカラ猶朝霜ミルヌレテホロヒヤスク山サクラ哉此寺ノ別当若基
鴨 後ノ詩ニモ春霜結トヨメリアリヤトモハ

寄霞
ハルガスミヤマニタナビキ オホツカノモヲ アヒミテノチコヒムカモ
春霞山棚引欝妹乎相見後戀毳
ハルカスミタチニシヒ ヨリケフニデニ ワカコヒヤマズ
春霞立爾之日從至今日吾戀不止
カタオモヒニシテ モトノシケシケ
波一云片念爾指天
サ十ニ十五 ツラフ イモヲト カスミタツハ
左丹頰經妹乎念登霞立
ハルワカヤトノウヘニ タツカスミタチテモ サキミカ ニヽク
霾寸春吾山之於爾立霞跡雖立座君之隨意
ワタセハ カスガノヘニ タツカスミ ホシキキミガス モ
見渡者春日之野邊爾立霞見巻之欲君之容

母 紫詞春ト云ヘル為ニテケルカ私ト云心乎私ト云ルコトカ
タヘキ ハルワカヤトノウヘニ タツカスミタチテモ サキミカ ニヽク
霾寸春吾山之於爾立霞跡雖立座君之隨意
ワタセハ カスガノヘニ タツカスミ ホシキキミガス モ
見渡者春日之野邊爾立霞見巻之欲君之容

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

儀香（カタカ）

戀乍毛（コヒツヽモ）今日者（ケフハ）暮都（クラシツ）霞立（カスミタツ）明日之春日乎（アスノハルヒヲ）如何（イカニ）將晩（イカテ）クラサム

寄雨

吾背子（ワカセコ）爾（ニ）戀（コヒ）而（テ）爲便（スベ）莫（ナミ）春雨之（ハルサメノ）零別（フルワキ）不知出而（レラス）（イデヽ）（何ノワキモナク恋ヒサヒ出レトヽ）

来可聞（コシカモ）

今更（イマサラニ）君者伊（キミハイ）不往（ユカ）春雨之（ハルサメノ）情乎（コヽロヲ）人之（ヒトノ）不知有名（シラザラナ）

國（クニ）

（三字未詳）

（何ノワキモナク恋ヒサヒ出レトヽ）

（春雨ニ井ハレテトマレト人ノトカメレト）

三字ノ中ノ一字可見

春雨爾（ハルサメニ）衣（コロモ）甚（ハイタク）將通（トホラメヤ）哉（ナヌカ）七日（シ助フラバ）四零者（ナヽヨ）七夜（コシトヤ）不來哉（キミガ）

梅花（ウメノハナ）令散（チラス）春雨（ハルサメ）多（サハニフル）零（タビニ）客爾（ヤ）將留（イホリセ）也（ム）君之廬（ルラ）入西（イリ）

（アヒ思フ人ヲ旅ニヤリテ思ニヤリテヨメル）

寄草

國栖等之（クニスラカ）（大和ノ吉野ノ国栖ノ人ヲ云ヘリカトニハカニ定メカタシ）

（ツカヘマツルヲ）

（八雲ニミメクト云ヘルト同シ）

（ヨシヤ巣ナルヘシ）

春菜將採（ワカナツムラム）司馬乃野之（シバノヽ）（シバ〳〵キミヨ）

（コヽロノ神武紀ノ意）

日（キモフコノ）

（ハルクサノ）

春草之（ハルクサノ）繁（シケキ）吾戀（ワカコヒ）大海方（オホウミノカタ）往浪之（ユクナミノ）千重積（チヘニツモリヌ）

（ハヘヌ）

（ナカキハルヒヲ）

不明公乎（アヒミテスガノヲ）相見而（ノ）（コヒ）後（ノチ）將戀（コヒムト）

（悲ノタルカモ）

（ヨシヤ巣ナルヘシ）

國栖司馬野ニ云ヒ郡

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47

ガラス使用

寄松

梅花咲而落去者吾妹乎將來香不來香跡吾
待乃木曽（一ツノ（九世二十三廿八）キソ）

寄雲（逢意）

白檀弓今春山爾去雲之逝哉將別戀數物乎

贈蘰（カツラ）

大夫之伏居嘆而造有四垂柳之蘰爲吾妹
悲別

朝戸出之君之儀乎曲不見而（アサト〻テノ　キミカ　ヨソヒヲ　ヨノ（十三）ニ　ツマ）
九良三（クラサム）

問答

春山之（ハルヤマノ）馬酔花之（アセノ）不惡公爾波思（アシクモアラヌキミニハシ）
好（ヨシ）

石上振乃神杉神備而（イソノカミフルノ　カミスギカニビテモ（老後恋））吾八更更戀爾相爾家
留（ル）

右一首不（二）有（一）春歌（一）而猶以（ヲ）和故載於茲（一）次（二）

顯宗紀云石上振之神椙（椙此云伐本截末此云談盍反利）伏本截末此云談盍反利　須斬於茲（一）（一）

豊玉姫（アカ玉ヒカリアリトヒトハイヘド）

女ノ寺ナルヘシ

雲名新山辺郡石上（伊賀乃加美）

狹野方波實爾雖不成花耳開而所見社戀之
（サヌガタハ　ミニハナラズトモハナサキテ　ミヘ　コソコヒノ
ナグサメ　ナリサニ藤ノ異名トイヘド不分明　ハナノミモ）

名草爾
（ナグサメ）

狹野方波實爾成西乎今更春雨零而花將咲
（サノカタハ　ミニハナリニ助ヌイニサラニハル　サメフリテ　ハナサカメ
ヤモ　三之日カデサスベシ云フベシ）

八方
（新勅梓弓ノ淳ナノリソノ誰ウキモノトイハマシメケレ）

梓弓引津邊有莫告藻之花咲及二不會君毛
（アヅサユミ　ヒキツノベ　ナルナノリソガ　ハナサク　ニテニ　アハズ　キミカモ
（伊勢三之式前十五世）　キ　ニセワカセコ）

川上之伊都藻之花之何時何時來座吾背子
（カハカミノ　イツモノハナノ　イツモ　トキトシカケメ　ヤモ
（伊勢三之式前十五世）　モノ　ハナノ　イツモ　トキトシカケメ　ヤモ　四ノ十三吹黄刀自歌全同）

時自異月八方
（ハルサメノ　ヤニスフル　ワカコフルヒトノ　ハルサメノ　ヤニスフル　四ノ十三吹黄刀自歌全同）

春雨之不止零吾戀人之目尚矣不令相見
（ハルサメノ　ヤニスフル　アヒミセサラム　アヒミセサラム）

吾妹子爾戀乍居者春雨之彼毛知如不止零
（ワギモコニ　コヒツヽヲレハ　ハルサメノ　カレモシルゴトヤマス　フリ
（ナニタノ例ヤマス）　ヘタタミテ）

作
（アヒオモハヌモヤ）

相不念妹哉本名管根之長春日乎念晚牟
（モトナ　スガノネノ　ナガキハルヒヲ　オモヒクラサム
ハルサレハ　ニツナクトリノ　ウクヒスノ）

春去者先鳴鳥乃鶯之事先立之君乎之將待
（アヒオモハズアラム　ユユシクソヌノナカキハルヒヲ）

相不念將有兒故玉緒長春日乎念晚久
（アヒオモハズアラム　ユユシクソヌノナカキハルヒヲ　オモヒクラサム
（アルニシムコユユ約）　ユユシクソヌノナカキハルヒヲ　オモヒクラサム）

夏雜歌

詠鳥
（ホトヽギスヲヨメル）

大夫丹出立向故郷之神名備山爾明來者柘
（マスラヲニ　イデタチムカフルサトノ　カミナビヤマニ　アケクレハ　ツミ
（ホトヽギス本名ヲ不知ニ出向ニ武男ヲ見ズ向ク　ハレリテ　ヲ
（ホトヽギス本名ヲ不知ニ出向ニ武男ヲ見ズ向ク　ヘタタミテ）

四音ノ用

後撰之三人不和ノ七字ニテ

并ニ假字等有

ノ　サ　エタニ　ユフサレハ　コ　ニ　ツカ　ウレ　ニ　サ　ト　ビト　ノ　キ　ヽ　コヲル

之左枝爾暮去者小松之若末爾里人之聞戀

ニ　デ　ニ　ヤ　ヽ　ヒコノ　コタフルマ　デ　ニホト　ヽ　キ　スツ　ヽ　コヽスラ　ニ　ハ

麻田山雲乃蒼譽萬田霍公鳥都麻戀爲良思

サヨ　ナカ　ニ　ナク　アヒトヨムマデ　今

左夜中爾鳴

反歌

タビ　ニ　レ　テツヽゴヒス　ヲ　ニ　ホトトキス　カミナビ　ヤヽニ　サ

客爾爲而妻戀爲良思霍公鳥神名備山爾左

ヨ　フケテ　ナク

夜深而鳴

右古歌集中出

ホト　ヽ　キス　ナガハツ　コヱハ　ワレニ　ガ　モ　キカセヨ　サ　ツキノ　タヽニ　ミレヘテ

霍公鳥汝始音者於吾欲得五月之珠爾貫而

クスダニトス

ヌカム

將貫

アサカスミタナビクノ　ベニアシビ　キ　ノ　ヤヽホトヽキス　イツカ　キ　ナク

朝霞棚引野邊足檜木乃山霍公鳥何時來將

良今集人丸幸トメ秋萩ノ枝ヽ森假サキテリ下句全同

ム

鳴

アサカスミヤ　ヘ　ヤヽコエテ　ヨブコドリナキヤ　ナガクルヤド　モ　フラ

旦霞八重山越而喚孤鳥吟八汝來屋戸毛不

ナク　ニ

有九二

紫野春部二月八廿四首ト有テ雪ノ寄ノ一首交テ廿四首ノ此呼子ヲ入レ春ノ寄ヨリ冬ノ部ヨリ交テ誤テ春ニ入レ

ホト　ヽ　キス　ナクコエキクヤウノ　ハナノ　サキチル　ヲカニ　タ　グサヒク

霍公鳥鳴音聞哉字能花乃開落岳爾田草引

クツ

ハヽクヽ　ヤヨリ

嬬

ツヤヨ　ミ　ヨ　ナクホト　ヽ　キス　ミヽクホリワカ　クサ　ヲトレル　ミムヒトモガ　モ

月夜吉鳴霍公鳥欲見吾尊取有見人毛欲得

イヨ　モ

ヲトリホトキスヲ待テアケヌルコヽロアラシ人ニ来テヨ

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47

ガラス使用

藤浪之散巻惜霍公鳥今城岳叫鳴而越奈利

且霧八重山越而霍公鳥宇能花邊柄鳴越来

木高者僧木不殖霍公鳥来鳴令響而慈令益

難相君爾逢有夜霍公鳥他時從者今社鳴目

霍公鳥今朝之且明爾鳴都流波君將聞可朝

宿疑將寐

渡良哉

霍公鳥今夜乃於保束無荷霍公鳥喧奈流聲之音乃

遥左

五月山宇能花月夜霍公鳥雖聞不飽又鳴鴨

霍公鳥来居裳鳴香吾屋前乃花橘乃地二落

六見牟

霍公鳥厭時無菖蒲縵將為日從此鳴度禮

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47

ガラス使用

ヤマト　二ハナキテカ　クラム　ホトトキス　ナガナク　ゴトニナキヒト　ホモホシ

山跡庭啼而香将来　霍公鳥　汝鳴毎無人所念

ウノ　ハナノ　チラマクヲシミ　ホトトキス　ノニイデヤミイリキ　ナキトヨモス

宇能花乃散巻惜　霍公鳥　野出山入来鳴令動

タチハナノ　ハヤシヲ　ウエムホト、キス　ツヲニ　フユニデスミワタルガヲ

橘之林乎殖霍公鳥　常非冬及住度金

アニバリノ　クモニ　タグヒテ　ホト、キス　カスガヲサシテ　コエユナキワタル

雨瞻之雲爾副而霍公鳥　指春日而従此鳴度

モノオモフト　雰或　イヲヌ　アサゲ　ニ　ホト、キス　ナキワタルベシ

物念登不宿旦開爾霍公鳥　鳴而左渡為便無

ニ　テ　ニ

左右二　此集テヨハ於ニ多ク昏リ今モノ心ニワカコロモ君ニトヨムニ於テ字ヲ次リテニトヨムニテノ廿五丁

ワガキマヨ　キミニキセ　ヨト　ホト、キス　ワレヲ　ラセテケテニキ　井

吾衣於君令服与登霍公鳥　吾乎領袖爾来居

ツ、　共ニ得カタシ三之日此方之神ト時ヲ乙女ハ君ニアフ今ハ君ニ逢フアヲ　於恋ヒシクヨシヲ人ノ知　後ヤスキヤマヒシ児ユヘカリ乙女ノ三ルヘク　ウツホクラヒニキ　トヨヤル　衣神ノ色ヲミヨメノ候ノカルモノカハ

管

モトツヒトホト、キス　ヲヤ　マレニ　ミム　イマヤ　ナガクルコヒツ、ヲレバ

本人霍公鳥乎八希将見　今哉汝来恋乍居者

（又過行ト今ノ云ヒモ有ヘシ）　カクリヤノ　フクニ　ホト、キス　ウノ　ハナヤマニ　ナキカ　ナク

如是許雨之零爾霍公鳥　宇之花山爾猶香将鳴

ラム　師云山ニカク尼鈴宿近クナケカシト時ヲヲ待ワヒテヨメルニヤ　多ク非ス七廿三之廿五ノ廿九十九ノ九

詠蝉　日クラシヲヨメリ物トミヘタリ　八廿五

セミ　アラム　トキモ　ナカナム　ハニ　クラシノ　モノモフトキニ　ナキ

黙然毛将有時母鳴奈武日晩乃物念時爾鳴　かの意

詠榛　才七詠ル歌ニ榛アリ木ノ造トスヘシ　反ニヲノ称ニ成テ皮ヲハクトニヘリ

オモフコガ　コロモスラム　ニ　ホ　ヒ　ハリ

思子之衣将摺爾保比与島之榛原秋不立　勢脱　云ニヨムニ落字ニ非ス廿二又伊勢物語ニ秋ノ大和也事ヲ

セヨ　ハギハラアキタヽズ　ハリ　ハシメヨリ告コセ　ハシメヨリ告コセ

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47

ガラス使用

友

詠花

カセニチルハナタチハナノソテニウケテ　キミカミタメト　妹カニンテ教成ヘシ　字幹倒スルヲ
風散花橘叫袖受而爲君御跡思鶴鴨
カホル辨ハ　ミキハナタチハナノタマニヌキオクラムイモヲ　ミツレテモアルカ
香細寸花橘乎玉貫將送妹者三禮而毛有香
ホトトキス　ナキトヨミスタチハナノハナチルニハフ　三ム　ヒトヤ　タヘ君ト云心
霍公鳥來鳴響橘之花散庭乎將見人八孰
ワカヤトノ　ハナタチハナ　チリニ　ケリ　アヘル　キミカモ
吾屋前之花橘者落爾家里悔時爾相在君鴨
ミワタセハ　カカヒノ、ベノ　ナデシコノ　チラマクヲシレモ　アメナ　フリコソ　七ノ世
見渡者向野邊乃石竹之落巻惜毛雨莫零行
年ノ

雨聞開而國見毛將爲乎故郷之花橘者散家
アマヘハベアケテクニミモセムヲフルサトノハナタチハナハチリニケム
年可聞
ムカモ
野邊見者瞿麥之花咲家里吾待秋者近就良
ノヘミレハナテシコノハナサキニケリワカマツアキハチカツクラム
思母
モ　後撰題不知ナテシコノ花チリカタニナリニケリ我待秋ノ近クナルラム　本ニ九三十月カ野ヲ平イホリミマカリレミ　ホトトキス鳴ツカルアヒ曳ノヤマト撫子サキニケルモ　人不知　本中臣能宣
吾妹子爾相市乃花波落不過今咲有如有與
ワキモコニアフチノハナハチリスキヌデイマサケルコトアリソヘセム　後撰ニ今カラチノサケルカ如クニトヨメリ　棟
奴香聞
ヌカ
春日野之藤者散去而何物鴨御狩人之折而
カスカノ、フチハナリユキテナニヲカモミカリノヒトノヲリテ　家持集カサ、ム
將挿頭
ム　四月中旬以下ノ季成ヘシ

新千春下　ヨミ人不知

新拾遺　赤人　萬万モミナハノチリルヲハ神ニヲケムナミオトサヌモコソツケチ載ルニチル花ヲヲシノ神ニシテ我宮妨カチ和ニセム　ミシ　嚴日本紀　文武四年九月廿四日詔云ニトモト五位已上ニ賜ル物ノカクノコトカルヲモヒシルトヲミヨロレ

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

日本後紀藤原園企
皆城天皇哥ケノ
ニノ比ノミキハ時多
タモウハナモトナクハ
キンツヤ

トキナラヌタマソ（薬玉）ヌケル　ウノハナノ
不時玉乎貫連有宇能花乃
（ベク）
有

問答

ウノハナノ　サキチルヲカニ　ホトヽキス　ナ
宇能花乃咲落岳從霍公鳥鳴
ツヤ
津八

キヽツヤ　トキミガ　トハセ　ハ　ホトヽキス
聞津八跡君之問世流霍公鳥

ナキテ　サ付字　土天ト書ス　ワタルキミハ　キヽ
而從此鳴綿類

ヘ

譬喩歌　或本無歌字　宜

ヌ（ヌノ）　ヌレ沾
霍公鳥小竹野爾所活

（五月ニハマダ又ハ改也）

サツキヲ　マタハ　ニサシカル
五月乎待者可久

ハ

タチハナノハナチル　サトニ　カヨヒナ　ハ　ヤマホトヽキス
橘花落里爾通名者山霍公

（里人）

トヨヽセム（モサ）　カモ
鳥將令響鴨

古今集離別部　ハルサ（置ク）
夏相聞

寄鳥

ハ　ガル（ス）　ナルノ（ナル二テ下ニカヽリ又ニテモ又ハ我ノ只野ヲ云ヘ為ヘ）　ホトヽキス
春之在者酢（未）輕成野之霍公鳥

（鳴）　ケリ　アハズ
保等
忍
不相來爾家里

サツキヤヽハナタチハナニ　ホトヽキス　トキニ　アヘル（ヒテ）　キミカモ
五月山花橘爾霍公鳥隱合時爾逢有公鴨

ホトヽキス　ナクサツキノ　ミヅカヨ　モ　ヒトリヌレハ（助字ノヌレハ）　アカシカネツモ
霍公鳥來鳴五月之短夜毛獨宿者明不得毛

寄蟬

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47

ガラス使用

ヒグラシ ハ トキト ナケトモ ワカコフルタ ヲヤメ ワレハ サタマラスナク
日倉足者時常雖鳴我戀手弱女我者（時ナ）不定哭
（秋常ニモテ反過ハナカヌ）

寄草 木部家集 世ノ中ハクカ川モナカナレ君下枝ヲ中レタヘスハ

ヒトゴトハ ナツノヽ クサノ シケクトモイモト ワレトシタツサハリヲバ
人言者夏野乃草之繁友妹與吾携宿者
（サヽメスソナクヘ トキワカスナクヘ イフモナケト）

コノコロノ コヒノ シケヽク ナツクサノ カリハラフトモオヒシケクガゴト
逝者之戀乃繁久夏草乃苅掃友生布如

ヤマモ ヤカテ思ニ死ナン

八方 ワレノミヤ カクコヒヲセラ ハ カキツ ハタニ ホヘル イモ ハ イカ
吾耳哉如是戀為良武垣津旗毋類令妹者如
（十ノ十五） （カモアラム） （頻ヲ） （セル本ノ詞）
何将有

寄花

カタヨリニ イトヲソ ワカヨルワカセコカ ウキヒスノ カヨフカキヲ
片撚（片恋）糸乎曽吾搓吾背兒我 浮氷（浮キ）之 通（カヨフ）垣乎
ノウノハナノ ウツロヒヌカモ
（オヘニ）

ウツロヒヌ（今ヲ云ヒ改又云ハ乎ト人ハコヌ）
鶯之往来垣根乃宇能花之 厭事有哉君之不
（ウキコトアレヤ キミニカキ）

モヒテ
母思手 何トソ逢タク思フ

来座 古今雑下郭恒水面生ル五月待ツ人ノ手ニトアヤ根ヲタヘテコヌ
ウノハナノ サクトハナシニ アルヒトニ
宇能花之開登波無二有人爾
（ウノモノカタクトハナシニ）

コヒヤ ワタラハカタオモヒ
戀也将渡獨念
（モヒ）

ワレコソハ ニクヽモ アラメ ワカヤトノハ ハナタチハナヲ ミニハコ ハ
爾指天 吾社葉憎毛有目吾屋前之花橘乎見爾波不

（女手ナヘト指違甲 勢カキテ）

（指難者 ホトトキヌカヨフ 人丸）

（古今異人ノコトナリ ケクトモカレテケク君ニ アハサフムマハ 指恋ニ 人丸）

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』 請求記号 857-47
ガラス使用

ジトヤ

来鳥屋

ホトトキス　キトヨマスヌカベ　ナルフヂナミニハ　キミハコジトヤ

霍公鳥来鳴動崗部有藤浪見者君者不来登

夜

カクノミニコフレバ　クルシナテシコノ　ハナニ（サキイデヨ）アサナサナ　ミム

隠耳戀者苦矣之花爾開出與朝旦将見

ヨソニノミ　ツヽムハナノ　イロニイテズ　トモ

外耳見箇戀牟紅乃末採花乃色不出友

寄露

ナツクサノ　ツユワケコロモキモ　セヌニ　ワカコロモテノ　ヒルトキモナキ

夏草乃露別衣不著爾我衣手乃干時毛名寸

寄日

三十ツキノ　ツチサヘサケテ　テルヒ　アハズニテ

六月之地副割而照日爾毛吾袖将乾哉於君不相四手

秋雑歌

七夕

アマノカハ　ミツサ（月出）ヘニテル　フナワタリフネ　ヒサカタノ　アマノカハラニ

天漢水左閉而照舟竟舟人妹等所見寸哉

ヒサカタノ　アマノカハラ　ニヌエトリ

久方之天漢原丹奴延鳥之裏歎座津乎諸手

丹

ワカコヒヲイモハ　ユクフネノ　スキテ　クベシヤ

吾戀嬬者知遠往舟乃過而應来哉事毛告火

綠衣使上 赤人
天安河 神代紀

古事紀神武巻建御雷神曰降此刀取者穿高倉下之倉頂自其遷入故阿佐米余玖自阿下五字音伊取持而天神御子

幸牛ニテリテヨメリ

アカラフ ヒク(紅顔也) ヒキタヘノコヲ(織女)シハミシレハ ヒトヅマユエニワレコヒヌヘシ

朱羅引色妙子數見者人妻故吾可戀奴

アマノガハヤスノワタリニ フチウケテ アキタチマツト イモニツナヨ(告ヨト人ニツケヨ字ヲヌ名ヲシ)

天漢安渡丹舩浮而秋立待等妹告與具(ソ)

オホソラニ カヨフワレスラ ナレユエニアレノカハギヌナ ヅミテゾ(織女)

從蒼天往來吾等須良汝故天漢道名積而叙

來(古事紀上八千矛神奉可引ヤ)

ヤチノカミノミヨ、リトモシマセハ

八千戈神自御世乏孋人知爾來告思者

ワガ コフルニノホノオモヲ ヨヒモ カモアヘカハラニイソマクラマク

吾等戀丹穗面今夕母可天漢原石枕卷

キノフカツマニトモシキ(昨日ノ夕ツマニ奉ラノ)ハ

已孋乏子等者竟津荒礒卷而寐君待難(此者心得ガタシ)

アメツチト ワカレシトキユ オノカツマニ(丹穗ト眉テラナハ比ヲ アラワニツ アヒミツツ) ハツルヨノニ(久ナバヲ)

天地等別之時從自孋然叙手而在金待吾者

ヒコボシノナゲス イモガコトダニモ ツケニソキ ツルミレハ(彦星ノ織女ガコトヲ)

彦星嘆須孋事谷毛告余叙來鶴見者苦彌(ヒコ星ノ織女ガクルニニ)

ヒサカタノアマノミチユ ミナセガハヘタテ、(六) オキミ

久方天印等水無河隔而置之神世之恨(メシ)

ヌバタマノヨ ギリコモリテトオクトモイモニアヒミムハヤクツケコヨ(ユケ)

黑玉宵霧隱遠鞘妹傳速告與(神世ヨリノ恨今ニ尽ト也)

ナガコフルイモノミコトハ アクマデニ ソテフリ(久星ヲサス)

汝戀妹命者飽足爾袖振所見都及雲隱(彦星ノ織女ガ)

ユフツヅ、モ カヨフアヂクイツマデカ アラギテ ツキヒトヨコ(彦星ノ異名トミ処ニヨリテカツラモス)

夕星毛往來天道及何時鹿仰而將待月人壯(下廿二指明星イ參詣)

アマノカハ ムカヒタチテ コフラクニ ユトダニツケム ツマトフマテハ

天漢向立而戀等爾事谷將告孋言及者

ミヅヒヲ トキモ ミズワレハ カ行ヨガ タヌ(カヘスヘカラズ結江次オ各三ヲヌ)

水良玉五百都集乎解毛不見吾者干可太奴

アスヒニモ ヲトヅレトカヌ(待ニテトク)

相日待爾

神代紀一便訳入及後之立石筒御統一經其整數乃服并侄云瓊玉也

彦星ニヨリテヨメリ

ツキト孋 遊仙窟

ラレテアテ(下二人ニテ乃天験帝ノ民ニアマルヒトノ)

續古萩上　赤人

六帖ナメカタ　兔

牽牛ノ条ヘ

指秋人兔
ユソクタリ　君ヲ
ムマヽニ

アヽノガハミツカゲクサノアキカゼニナビクタミレハ　トキハキヌラレ三之日稲ノ雨露ノ恵ミテ生ス故水カケ州ト云ヘリ只水カケ生ル草ヘ足引ノ水カケ草又ヘ水陰ニ生ル白菅ナトモヨメリ

天漢水陰草金風靡見者時來之
ワガ　ニチレ　アキハギ　サキヌ　イヽタニモ　ニ　ホヒ　ニ　ユカム

吾等待之白芽子開奴今谷毛爾寶比爾往奈
ヲチカタビトニ　（ハ雲ニフケトヨメルハ如何）　（タハ方テノ）

越方人遍
（織女）　ニ　ウラコヒラレハ　アヽノガハヨ　ブチコギトヨミカヂヤトキコユ

吾世予爾裏戀居者天河夜舩擢動梶音所聞
ワ指牽牛カ世　ケ　ナガクコフルコヽロヒラ　アキカゼニイモガオトモキコユ　ヒモトキユカム

真氣長戀心自白風妹音所聽紐解往名
（戀ノ心ニイヽレハ）　コヒレハケ　ナカキモノヲ　イヽダニモトモレム　ヘレヤ　アフベキヨ　タニ

戀敷者氣長物乎今谷乏牟可哉可相夜谷
アヽノカハコゾノ　ワタリバ場　ウツロヘ　（遠）　ハ　カハセ　ヲ　フムニヨソフケニケル

天漢去歲渡伐遷閉者河瀬於蹈夜深去來
ムカヒヨリ榜ケテ　イニシヘニ　コロモカヘリニズアヽノカハツ　（妻屋ノ戸ヲ閉トテ）　ニ　トニソ　ニケル

自古擧而之服不頓天河津爾年序經去來

王恋ニヨミ人知ラズ　嫁水戸嫁宅

稻ニテ日本ヒ

以下三字旧ヒタ剤ニ非

アヽノカハヨ　フチコギテ　アケタトモアハム　トモヲフヨ（ソテカヘスアレヤ）

天漢夜舩擢而雖明將相等念夜袖易受將有
トホツヽト　タヽクカテヲタルヨハトリガ子ナクナ　アケハ　アクトモ

遥嬬等手枕易寐夜雖音莫動明者雖
アヒミヽク　アキタラヂ　ドモイチノメノアケユキミケリ　フナデセム　イモ

相見久猒雖不足稻目明去來理舟出爲牟嬬
サ付ク子　ソメテイクタモ　アラヂバ　（逢ニル兎）　ニロタヘノオビコフベシヤ　コヒモ

左尼始而何太毛不在者白栲帶可乞哉戀毛
ツキヲ現イ　（イクバク）　不遠者（ツキヌニトゝ心）

ヨロツヨニテタヅサヒテ　アヒミル　トモオモヒスグベキコヒナラナクニ（盡ス心）

萬世携手居而相見鞆念可過戀奈有莫國
ヨロツヨニテルベキツキモ　アスノヒノクルニキモノソ　アハムト　オモヘド

萬世可照月毛雲隱苦物叙將相登雖念
ニラムモノイホヘ　カクルテトオケトモヨ　（カシ）　イサヨフ　ミムイモガアタリハ　モヘド

白雲五百遍隱雖遠夜不去將見妹當者
（下三十四）

ワカタメト　タナハタツヌノ　ソノヤト　ニ　オルニラタヘノハオリテ　ケムカモ
爲我登織女之其屋戸爾織白布織豆兼鴨
キミニアハヂ　ヒサシキトキニヲリキヌル　シロタヘコロモアカヅクマデ　ニ　集ニ
君不相久時織服白栲衣垢附麻豆爾
アマノガハ　カチノオトキコユヒコボシテ　タナバタツメトコヨヒアラシモ
天漢楫音聞孫星與織女今夕相霜
アキサレハ　カハキリタチワタルカハカハニムカヒ　テ　コヨルヨソオホキ
秋去者河霧天川河向居而戀夜多
ヨシヤシラタヾナラストモヌエ　ドリノウラナキオルトツゲムコモカモ
吉哉雖不直奴延鳥浦嘆居告子鴨
ヒトヽセニ　ナヌカノヨノミアフヒトノ　コヒモ　ツキヂ　ハ　ヨカフケユク
一年廻七夕耳相人之戀毛不過者夜深往久
モ
毛

一云　ツキ子ハ　サヨソアケニ　ケルヤマ子
一云不盡者佐宵曽明爾来

アマノカハヤスノカハラノ　ナカタニリテ　コヒロクラヘハ　トキニツナノニ
天漢安川原定而神競者磨待無
メテレ　カミツヒヒ　トグモナクタナク
カミ　日本紀

此歌一首庾信集出

都合卅一首ナリ
右柿本朝臣人麿歌集出

イクキボ　ハタタテ、　オルヌノハ、　アキサリコロモタレカトモミム
幾許　機立而　織布者　秋去衣誰取見
キリコミヤマニ　ヒトホツマノテ　ヲ
霧隠山而人乎待
トシニアリテ　イマカイマカトマツヒトノ　キヌヲトアレソ　ヒモトカザラフ
年有而今香將巻鳥王之夜霧隠遠妻手乎
ワカマチシ　アキハ　キタリヌ　イモト　ワレナニコト　ヒカ　ムカモ
吾待之秋者来沼妹與吾何事在曽紐不解在
何支カアラバ
ツヲノコトクヤ　ワカコヒヲラム
年之戀今夜盡而明日從者如常哉吾戀居牟
人丸集

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

續千秋上 赤人
ヨニつク

續後拾秋上 三入不知
三八くれ
タてくゝ

アハサルハ ケ ナカキモノヲ アマノカハ ヘタテヽタヤ ワカコヒヲラム
不合者 氣 長物乎 天漢 隔又哉 吾戀將居
アハサルハ ケ ナカキモノヲ アマノカハ ヘタテヽタヤ ワカコヒヲラム
コヒシケク ナ ナカキモノヲ ヲフヘクアルヨヨニダニキミガ キマサヾアル久
戀家口 氣 長物乎 可合有夕谷君之不來益有
ラム

良武

（休字ハ妻ノ誤不用）
ヒコホシト タナハタツメトコ ヨヒアハメアマノカハト ニ ナミタツナ ユメ
牽牛與織女 今夜相 天漢 門爾波立 勿謹
アキカセノフキタヾヨハメシラクモハ タナハタツメノ アマツヒレ カモ
秋風吹漂蕩 白雲者 織女之 天津領巾 蓬
シハく モアヒ ミヌ キミヲ アマノカハフナデ ハヤセヨノフケヌ マニ
數裳 相不見君矣 天漢 舟出速爲 夜不深間
アキカセノ キヨキヨス ニテノカハフネコキワタルツキヒトヨトコ
秋風之 清夕 天漢 舟榜渡 月人壯子
アマノカハ キリタチワタリヒコホシノ カヂモトキコユヨノフケユケ
天漢 霧立渡 牽牛之 機音所聞 夜深往
キミカフチイマコキクラシ アマノカハキリタチワタルコノカハノセニ
君舟 今榜來良之 天漢 霧立渡 此川瀬
アキカセニ カハナミタヌレハラクハヤソノフナツニミフチトメ(ム)人息ヒヤリテヨメルニ)
秋風爾 河浪起 暫八 十舟津 三舟停
アマノカハカハオトキコユレ ヒコホシノ アキコクフチノ ナミノサワクカ
天漢 川聲清之 牽牛之 秋榜船之 浪躁香
アマノカハカハトニタチテワカコヒシ キミ(ハ)ヤ(ム)ナリ ヒモトキマタム
天漢 川門立 吾戀之 君來奈里 紐解待 一云
アマノカハカハニムキタチ
天川 河向立
アマノカハトニサツ(シ)テレツキヲコヒコシキミコソ ヨヒアヘルカモ
天漢 川門座(居)而 年月 戀來君 今夜會可母
アスヨリハ ワカタヾヒ(ド)コヲ ウチハラヒキニトハ(イト)ヌ(ズ)テ ヒトリカモ子ム
明日從者 吾玉床乎 打拂 公常不宿 孤可母寐
アマノハラユキテヤイルト シラニユミヒキテ カクセルツキヒトヲトコ
天原 往射跡 白檀 挽而隱在 月人壯子
ユキテイルトヤ(ム)或ヲ 月入テ後逢ト人ハ弓張月ノ入ヲカクストニヤ

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

新百人九手トセリ
トワ丸舟カイニ乎カ

後撰 挙 拾秋 人丸

弁橋 神代紀松外 仮原氏ホニヨ

コノユフヘフリクルアメハ ヒコホシノ
此夕零来雨者 男星之
アマノカハヤソ せ キリアフヒコホシレノ
天漢八十瀬霧合 男星之
カせ フキテ カハ十三久子文ニ 舟フ子ニ
風吹而河浪起 引船舟
アマノカハ トホキワタリハ ナクレトモキミカ
天河遠渡者 無友公之
トシニ ヨシフワカフ子コカムアマノガハカせハ フクトモナミタツナユメ
年丹装吾舟 榜天河風
アマノカハ 漢官 三ハ タツトモワカフ子ハ イザコキイテムヨ ノフケヌマ ニ
天河浪者 立友吾舟
ハヤコクフヨノ カイノチルカモ
早榜船之賀伊乃散鴨
トノ シツクカ仁本
トキマツフ子ハイニカヤコグラレ
時待船今榜良之
ワタリモ キせヨノフケヌマニ
渡毛 来夜不降間爾
フナデ ハ トシニ コソマテ
舟出者 年爾社候
俟

アマノカハウチハシレワタスイモカイヘヂヤマズ カヨハムトキマタズトモ
天河打橋渡 妹之家道
ツキカサ子ワカオモフイモニアルヨ ハ カノイマレナハヨヲ
月累吾思 妹會夜者 今之七夕
トシニ ヨシフワカフ子コカムアマノガハハカせハ フクトモナミタツナユメ
年丹装吾舟 榜天河風
アマノカハウチハシレワタスイモカイヘヂヤマズ カヨハムトキマタズトモ
天河打橋渡 妹之家道
トバニ ナスカノヨツキコ せヌカモ ワタテ
不止通時 不待渡
アマノカハ 漢官 三ハ タツトモワカフ子ハ イザコキイテムヨ ノフケヌマニ
天河浪者 立友吾舟
イマレナハヨヲ
今之七夕 續巨勢奴鴨

ヤマコシノカハヲワタリテ ハヤクキミカ
山越乃 河乎渡而 早君之
イヘニイタラムコラニコトドヒモ イマタせズシテサヨソアケ
家爾将到子等爾事問母 未為而左夜曽明

タヘコヨヒアヒタルコラニコトドヒモ イマタせズシテサヨソアケ
直今夜相有兒等爾事問母 未為而左夜曽明
ニケル
ニ来

アマノカハ レラナミタカワカコフルキミカ フナテ ハイマソスラシモ
天河白浪高吾戀公之 舟出者今為下
ハタモノヽラニキモテ解 テ アマノカハウチハシレワタスキミガ コムタメ
機蹋木持徃而天河打橋渡公之 来為
アマノカハキリタチノボルタナバタノ クモノコロモノカヘルソデカモ
天漢霧立上棚幡乃 雲衣能飄袖鴨
イニシヘニオリテシ ハタヲノコノヨロモニヌヒテ キミマツワレヲ
古織義之 八多乎此暮衣縫而君待吾乎
アレタテモ義 ダテモユラニヲルハタヲノキミカミケレニヌヒ
足玉母手珠毛由良爾 織旗乎公之 御衣爾縫
アヘムカモ
将堪可聞

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

ツキニエリテアヒテ（レ助）アレハ　ワカレ（ル）モノヲシカルキミハ　アス（ノ）モ
擇月日逢義之有者別乃惜有君者明日副裳
（脱字ナシ）　（一本メクラキヘ）
カ　モ
欲得
アマノカハワタル（リ）セ　フカミ　フチタケテ　サシクルキミカ　カヂノ　キトキコユ
天漢渡瀬深彌泛舩而楫來君之檝之音所聞
アマノカハセ　ゴトニヌサシタテマツルコト、ロハキミニヨル
天漢瀬毎幣奉情者君乎幸來座跡
赤人集　サカタノ
ヒサカタノ　アマノカハツ　ニ　フチタケテ　キミマツヨラハ　アケズモ
久方之天河津爾舩泛而君待夜等者不明毛
アラヌカ
有寐鹿
アマノカハアレヌレワタル（リ）キミガ　テモ　（例如クムダニカチハヨノ　フケヌラム）
天河足沾渡君之手毛未枕者夜之深去良久
イマダマカチハヨノフケヌラム　之宜　（二八ノ又ニ之）

ワタリモリフチワタセ　ヲ助ト　ヨフコエノ　イタラヂバ　カモカヂノ　キコエセヌ
渡守舩度世乎跡呼音之不至者疑椹之聲不
イタラザレバカ
ヌ　（十八世四七メ歌　加多理毛理）
爲
マ　ケ　ナダカハニムキタチカリ（アリ）シ　ソテコヨヒ　イカト　（走ルガヨ　心ヲヘ脆ル姿ノ）　サ
眞氣長河向立有之袖今夜巻跡念之吉沙
アマノカハ　ワスルセ　ゴトニオモヒツ、コ　シクモシルシ　アヲラク　オモヘバ
天漢渡湍毎思乍來之雲知師逢有久念者
著
ヒトサ　ヘ　ヤミ　ツガズ（トガメズ）アラム　ヒコホシノ　ツヘヨフフチノ　チカツキ
人左倍也見不繼將有妻牛之嬬喚舟之近附
ミ　ツ、アルラム　ヨヒブネ
コクヲ
往乎　一云見乍有良武
アマノカハセヲ　ハヤミカモヌバタマノ　ヨハフケニツ、アハヌ　ヒコボシ
天漢瀬乎早鴨烏珠之夜者闌爾乍不合牽牛
人丸集　ワタリモリフチハヤワタセ　ヒトツニ　フタヽビカヨフ　キミニアラナク
渡守舟早渡世一年爾二遍往來君爾有勿久
（同）

拾雜秋　ワタリカナテノ夜ラカスクナシ
人丸　ワタシモリフネハヤワタセ　マスキミナラナクニ

吹芽ニテハ織女ヲ彦星ノ舟ニテ迎ヘテカルヤウニキコユ

後撰欵ニヨミ人子和アタマノトコノワタリ

タナ枚挙 日本紀古支比

二

雨 後又ハキノフ

タマ カツラタエヌ モノカ ラサヌラノハ トレノワタリニ タベヒトヨ ノミ
玉葛不絶物可良佐宿者年之度爾直一夜耳

ハケ ナカキモノヲ コヨヒ ダニトモレムベレヤ アフベキモノヲ
癒日者氣長物乎今夜谷令之應哉可相物乎

タナハタノ コヨヒ アヒナ ハ ツ子ノゴトアス ヘダテ トレハ ナガ ケム
織女之今夜相奈婆如常明日乎阻而年者將長

アマノカハ タナハレワタス セ タナバタノ イモ
天漢棚橋渡織女之伊渡

アマノカハハトヤ ソ アリイツコニ 処手 カ キミカ ミ フチヲ ワカヘチヲラ ム
天漢河門八十有何処爾可君之三船乎吾待將居

古今

後撰欵上ニヨミ人ノセノモリナニ

アキカゼノ フキニレヒ ヨリアマノカハセ ニ イデタチテツト ツゲコソ
秋風乃吹西日從天漢瀬爾出立待登告許曽

アマノカハノカハコソノ ワタリゼ アレニケリ キミカキマサム ミチノ ミラナ
天漢去年之渡湍有二家里君將来道乃不知

久

アマノガハ セ ニ シラナミタカケドタベ ワタリキメ ツニ後 テバ クルレミ
天漢湍瀬爾白浪雖高直渡來沼待者苦三

人丸家持 ヒコホシノ ツマヨフチノ ヒキツナノ 序 タエム トキミヨ ワカオモハナ
牽牛之嬬喚舟之引綱乃將絶跡君乎吾念勿

クニ 唐韻云牽紋音又副亞奈天 挽舩縄之
國

ワタリモリノナデレ イデム コヨヒ ノミアヒミテ ノチハ アハン モノ カモ
渡守舟出爲將出今夜耳相見而後者不相物可毛

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』 請求記号 857-47
ガラス使用

ワガカクゼルカヂサホナクテ　ワタリモリフ子カカメ惜ヤモシレハレ　アリマテ　古今集云久カタノクモノカヨヒヂ幾ノワタリナルカケルシテヨ　萩原隈邊投鞘

待　アメツチノ　ハジメノトキユ　アマノカハイ　ムカヒヲリテヒト、セニ　フタ、ビアハ

乾坤之　初時從　天漢　躰認向居而　一年　丹兩遍不

遺妻戀爾　物念人　天漢安乃川原乃　有通出出

乃渡舟　具穗舩乃　艫舟裝舳舟裝　船裝真楫繁

拔旗荒　本葉裳具世　舟秋風乃　吹來夕　丹天川

白浪凌　落沸速湍　渉稚草乃　妻手枕　迹大船乃

思憑而　榜來等　六其夫乃子我　荒珠乃　年緒長

思來之　戀將盡　七月七日之夕者　吾毛悲烏

反歌

狛錦紐　解易之　天人乃妻問夕　叙吾裳將偲

彦星之　川瀬渡左　小舟乃　得行而將泊　河津石

所念

天地跡　別之時從　久方乃　天驗常　豆大王天之

河原爾　璞月累而　妹爾相時　待侯跡　立待爾吾衣

手爾秋風之　吹反者　立坐多土伎　乎不知村肝

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47

ガラス使用

コヽロオホエストキヾヌノモヒミダレテ　イツシカト　ワガマツコヨヒ　コノカハノユキ
心不欲解衣思亂而何時跡吾待今夜此川行
（序）　ナカクアルラメヤ　カモ

長有得鴨

反歌

イモニアフトキカタマツト　ヒサカタノ　アマノガハラニ　ツキゾヘニケル
妹爾相時片待跡久方乃天之漢原爾月叙經
（九ノ集ニ）　来

詠花

サヲシカノ　コヽロアヒオモフアキハ　キノ（黄鐘）シグレノフルニ　チリソマシヲレ
左小鹿之心靡秋者木（増補）乃時雨乃雨爾（曾ウト書布カタヨリ紹ヒモ字ト布ト同句ナレバ平）　落勿勤

ユフサレハ　ヘノアキハギ　ネヤワカミツユニシカレテアキマチガタシ
夕去者邊秋芽子未若露枯金待難
（八月比ヲサス）　秋ト云ヘドモ時カクノ秋李秋晩秋アリ

右二首柿本朝臣人麿之謌集出

オホノヽハキノハナ
大野之芽子花

カリカネノ　ナカムニテミツヽ　アラムコノハキ　ハラニアメ
雁鳴之來喧牟日及見乍將有此芽子原爾雨
フリソネ　下秋ハキハニアハシトイヘハカ声ヲキヽテハ花ニナリヌル又ヲカノハノ声キヽテサキテ紅ヤトノ秋ハキミユワセコ

勿零根

オクヤマニ　スムケフシカノ　ヨヒ　サラスツマトフハキノ　チラマクヲシモ
奥山爾住云男鹿之初夜不去妻問芽子之散
（ヨヒヽ毎）　乃宮

久惜裳

玉梓ノ　ミチユキカヨフ　ヒトノコノ　ヨヒニアヒテハ　ワカレカヌラム
玉梓之道行通人乃子之夜二相而者別可奴良武
（玉梓ノ枕詞和名大和字智都阿波詞音訓）

ヒトノコノ　ヨヒニアヒテハ　ワカレカヌラム
人乃子之夜二相而者別可奴良武

心不欲解衣思亂而何時跡吾待今夜此川行
コヽロオホエストキヾヌノモヒミダレテ　イツシカト　ワガマツコヨヒ　コノカハノユキ
ナカクアルラメ　カモ

長有得鴨

反歌

妹爾相時片待跡久方乃天之漢原爾月叙經來
イモニアフトキカタマツト　ヒサカタノ　アマノガハラニ　ツキゾヘニケル

詠花

芽子志鹿之心相念秋芽子之錦禮零冊落僧惜毛
サヲシカノ　コヽロアヒオモフアキハギ　ノ　ニシキツヅレノフルニ　チリソフヲシモ

僧ノ字一本四校上部女等ニ知僧トカケリ日本紀ニ僧ノ字ヲホウシトヨメリ伝師上テモ音エルフヤガテ和謦用タレハ僧公丘家師士ハ師ノ字カケルヤ

黄鐘

増補　曽ウト曽布トカ　十タカリ　紹上モ　宇ト布ト　同旬ナレ　ドモ

落句ノ字多クノ乃ノ句ニ次ヲ下ルモ多シ

玉秋上
和名太和卑　智郡阿　阿波音訓

ヨフサレハノ　ヘノアキハギ　ワカミツユニカレテアキヾチガクヲ

夕去野邊秋芽子末若露枯金待難
ウス

秋ト云雑有ニ時分ク〻ノ秋季秋晩秋アリ

八月比ヲイフ

右二首柿本朝臣人麿之謌集出

真葛原名引秋風吹毎阿太乃大野之芽子花
マクスハラナビクアキカゼフクコトニアガ　オホノヽハギノハナ

大和

此哥ト古今ノ秋見ユル今ハアタナヒトシ取合テ定家ノカタミヨリアタノ大野ノ萩ノ露ヲ玉ノ色ノ乱レ乃ヒモナレ

散

カリカ子ノキナカムヒニテミツヽアラム

鴈鳴之來喧牟日及見乍將有此芽子原爾雨
コノハキハラニアメフリソ子

下秋ハキハニノニアレトイヘ分ヨラキテハ花ニテリヌル又万ヲカヲノハラキニテサキテ乱ヤトノ秋ハキミニユワセコ

勿零根
ナ

奥山爾住云男鹿之初夜不去妻問芽子之散
オクヤマニスムテフシカノヨヒサラストフハキノチラマヽ

乃宮
ヨヒ〻毎

久惜裳
クヲシモ

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47

ガラス使用

後秋中三人不知
アリテサラニワレヤカ
サムム

後　三人不知
秋由カリホノイホノ

催馬木呂更衣
衣替世事也依木武
達也秋衣着野原篠
原萩之花摺也依木
武達也

新招秋上　人丸
イサミニユカムアキノ
ミニ

レラツユノ　オカマクヲレミアキハ　キヌヲリノミヲリテ　オキヤ（折置カラ）　カラサム
白露乃置巻惜秋芽子乎　折耳折而置哉枯
アキタ　カルカリホノ　ヤリニ　ホフ
秋田苅借廬之宿爾穂經及咲有秋芽子雖見
アカヌ　カモ　（色ヒカリカヽヤク）艶也
不飽香聞
ワカキヌヲスレルニハ　アラズ　タカマドノ
吾衣摺有者不在高松之
スレルソ　本條ズリニ非ス只萩ノ咲ク頃迄也標スリト萩ノ花スリトヨクマカフ事多
摺類曽　後拾　女ヲミル野原ノ露ニ秋ヌレヌウツリヤレヌル花カ衣ヌリ
カ衣秋ハスラシ露シケキ野原ノ萩ノ花ニマカセテ　藪永朝政
コノユフヘアキカセフキヌ　レラツユニ　アラソフハ　ギノアス　サカム
此暮秋風吹奴白露爾荒爭芽子之明日將咲
（三露ヘ添ムトシテ萩ハサガシトス）
見
アキカセハスヽシクナリヌ　ウヘナメテイザ
秋風冷成奴馬並而去來於野行奈芽子花見

朝
此考難心得
後撰大ヒ侍ケル人ノモトヨリイカニマトマテ侍ケルトカ朝ツユノ消ヌ間ニトアリケレハ
ヨミ人不知
多ノ人ヒトニ物ハアレトヨシ秋ノ花ヲタヲルハカリソ
詩郊凡有女同車類如
字華今月令曰仲秋之月木堇榮（榮カ）
三体詩註槿川綿而
堪雖云槿花如葵
朝生夕隕一云舜
騨云義盖取此

ニ
爾（モシハ薩ノ下カ和名木佐和須トアリテ朝息トナシ詩経ニハアリ是ムクゲ）
アサカホハアサツユオヒテサクトイヘド　ユフカヘニヨソサキテサリケル
朝顔
呆朝露負咲雖云暮陰社咲益家禮
ハルサレバ　カスミガクレテニエ　サリ　レ　アキハ　ギ　サケリヲリテ　カサ、
春去者霞隱不所見有師秋芽子咲折而將挿
（ニヨメテミセサリシ家ム九家持）
頭
サ　ヌカダ（大和平群郡）
沙額田乃野邊乃秋芽子時有者今盛有折而
カサ、ム　サハ野ヲサイトイヘル
將挿頭
コトサラニ　スラレ　ヲミナヘ　ノ　アキハ　キノ、ハギニ　ニ
事更爾衣者不摺佳人部爲咲野之芽子爾丹
（枕詞ヘ実ハ萩ヲ責ノヨメリ）

秋風者急之吹来芽子花落巻惜三競竟

我屋前之芽子之若末長秋風之吹南時爾将開跡恩乎

人皆者芽子乎秋云縦吾等者乎花之未乎秋

跡者将言

王梓公之使乃手折来有此秋芽子者雖見不飽鹿裳

吾屋前爾開有秋芽子常有者我待人爾令見猿聲乎

手寸十名相殖之名知久出見者屋前之早芽子咲爾家類香聞

吾屋外爾殖生有秋芽子乎誰標剌吾爾不所知

手取者袖并毋霧美人部師此白露爾散巻惜

白露爾荒爭金手咲芽子散惜兼雨莫零根

嬬等行相乃速稲乎苅時成来下芽子花咲

新拾雜秋　人丸
アキハギノ

拾遺三　赤人
カタミニムトワカヤトニイマサカリナリ

壬秋　ヨミ人不知
新続古秋　家持
ヨコトニアヌメカサコノラノヘハキノチラマクモヲシ

アサキリノ　タナビクヲノ　ハキノ　ハナイマ
朝霧之　棚引小野之　芽子花　今
コヒレクバカタニ　ニセヨト　ワカセコカ　ウエシ　アキハヽ
戀之　久者形見　爾為與登　吾背子我　殖之　秋芽
ギ　ハナサキニケリ
子花　咲爾家里
アキハキニ　コヒツクサシト　オモヘトモ　レヱヤ　タアハ
秋芽子　戀不盡跡　雖念　思恵也　安多良思又　將
ムヤモ　（ヨシユヤシ　次キ入ル詞）　（惜キ）
相八方
アキカセハ　ヒニケニフキヌ　タカマトノ　ノヘノ　アキハ　キ　チラマク
秋風者　日異吹奴　高圓之　野邊之　秋芽子　散巻
ヲシレモ
惜裳
マスラヲノ　コヽロハ　ナレニ　アキハ　キノ　コヒニノミヤ　モ　ナツミテ
大夫之　心者　無而　秋芽子之　戀耳八方　奈積而
（煩ク字ハ）

アリナムイニシヘハシラス今ハアカレトモ心ニ用ヒハ誤ヘアリナムトヨムヘシ

有南
今ノ秋萩ヲウラヤマシトハ足曳ノ山トヨミシカノナクラム
ワカマチシ　アキハ　キタリヌ　シカレトモ　キノ
吾待之　秋者　來奴　雖然　芽子之
ハナヅモ　ミダサカズケ
花曽　未開家
（ヲミナカスニアリケル）

ニホヒワカマチコヒシ　アキハ　キハ　エタモ　レ　ミ　ミ　ニ　ハナサキ
類
欲見吾待戀之　秋芽子者　枝毛　思美三　荷花開
ニケリ　（繁ク）
二家里
カスカノヽ　ハキレ助　チリナハアサゴチノカセニ　タグヒテ　コヽニ　チリ
春日野之　芽子子落者　朝東風爾　副而　此間爾落
コ子
來根
アキハキハ　カリニ　アハジト　イヘレ　バ　カ
秋芽子者　於鴈不相常　言有者　香一云言　音乎
ヘコヱヲ　オト

続後撰秋下 人丸

暫秋下 カワチノイマトホリ

明ノトハ夜ノ朝ニ云ン時トカリ上更ニクワクナラス

キヽテ ハナニ チリヌル
聞而者花爾散去流
アキサルヲバ イモニ三サムト ウエシ ハキ
秋去者妹令視跡殖之芽子
(此二字ハ芽ニ句ノ下ニウツシ見ヘシ)
露霜負而散來毛
(能因哥枕ニ露霜ノ下ハ秋霜ヲ云 ツユジモオヒテ チリニケル カモ)
(アタナル意)
(春ウスル時ノ心)

詠鴈

アキカセニ ヤマトビ ユルカリカチハ イヤ トホサカルクモカクレツヽ
秋風爾山跡部越鴈鳴者射矣遠放雲隱筒
アケグレノ アサギリガクレナキテ ユクカリハ ワカコヒイモニ ツケコセツ
(忘ル告ヨトヘ 厚ノ便ノシ思ヒテヨメル歌)
明闇之朝霧隱鳴而去鴈者言戀於妹告社
ワカヤト ニ ナキレ カリカチノクモノウヘニ コヨヒ ナクナリクニツカタカ
吾屋戸爾鳴之鴈哭雲上爾今夜喧成國方可
(ヒヾ)
聞 モ

遊群

ユウクン
(吾皆ノ字ハ寄ノ字ヲ何トテカ別ニ示スヤ)

サヲシカノ ツヽトフトキニ ツキヲヨミ
左小壯鹿之妻問時爾月乎吉三伐木四之泣
キコユ イヽ ヲカ クラ レモ
(六ノ大)
所聞今時來等霜
上ノ句ヘ序ニ云ル近シ
アヽグモノ ヨソニカリカチキヽ ショリ
(マダラ スグニ雲ノ下ニモアルベシ)
天雲之外鴈鳴從聞之薄垂霜零寒此夜者
(ハ ダレシ)
イヤヽスヽニ コヒコ ソ ヽサレ

一云彌益益爾戀許曾增喬
アキノタノワカカリバ カ ノ スギユケハ カリガ ネノ
秋田吾苅婆可能過去者鴈之喧所聞冬方設
(刈場ヽ可ハ処ノ心ト云ヒ莚ヲ二墓処)
(方ハレ)

而

アシベ ニアル ヲギノハ サヤ ヤレ ヤ アキカセノ フキクルナベニ カリナキ
葦邊在荻之葉左夜藝秋風之吹來苗丹鴈鴨
渡
ワタル

日本紀云風喧擾之響雪 此云左御覧 利奈雄

新古秋下 カキホルヲキノハシ ヨキクナシカリノ ナクナム

朝ハ風ヘツヨメテ
暑シ

一云秋風爾鴈音所聞今四來霜
アキカゼニ　カリカ子キコユ　イマシラム　クラシモ
押照難波穿江之葦邊者鴈宿有疑霜乃零爾
オシテルヤナニハ　ホリエノ　アシベニハ　カリ子ヤトルカモシレモノ　フラク
アキカゼニ　ヤマトビコユルカリガ子ノ　コエトホザカルクモガクルラシレ
秋風爾山飛越鴈鳴之聲遠離雲隱良思
朝爾往鴈之鳴音者如吾物念可毛聲之悲
メヅガ子ノケサ　ナクナベニ　カリガ子ハ　イヅコ　ユケニテカ
多頭我鳴乃今朝鳴奈倍爾鴈鳴者何處指香
クモカクルラム武
雲隱良哉
ヌバタマノヨ　ワタルカリハ　オボツカナイクヨヲヘテカ　オノガナヲヨ
野干玉之夜度鴈者欝幾夜歷而鹿巳名乎
告
萓方
後撰ニ行返リコモカヨモ狭ナヤクル秋谷毎ニクトカヘハタノマヌラ声ニメテツカリトノミナク

ワタルワレヲ　トフヒトヤタレ
ヤラタマノトレノヘ　ユケハアトモフトヨワ
璞年之經往者阿跡念登夜渡吾乎問人哉誰
設為鳴呑
詠鹿鳴　八首　九十四
斷思ヒ遏ミ跡ヒ苦心
詠ノ日本記ニアトモトヨメリ心ハ如字世轉変迂流スル年ノ廻行ヲ人ノ詠テヤ只ニ
コノコロノアキノアサケニ　キリガクレツヽヨブシカノ　コエノ
比日之秋朝開爾霧隱妻呼雄鹿之音之亮左
サヨシカノツヽトノフトナクコヱノ　イタラムカギリナヒケハキ　ハラ
左男牡鹿之妻整登鳴音之將至極雜芽子原
キミニコヒウラブレヌレハ　キノヽアキハギ　シノギサヲシカナク
於君戀裏觸居者敷野之秋芽子凌左牡鹿鳴
モ　大知ノ長谷アメリ成ヘシ　小倉
裳
カリハキヌハ　キハチリヌトサヲシカノ　ナクナルコヱモ　ウラブレ
鴈來芽子者散跡左小牡鹿之鳴成音毛裏觸
ニケリ
所來

続古拾下　人丸
寒シカリ　仁徳紀

妻整外ニミヘス若
着ハ逢ヒト云心ナラ
ン分明

玉秋上　ヨミ人不知
モキヌ萩モチリヌト

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

秋芽子之戀裳不盡者左小鹿之聲伊續伊繼
戀許増益焉
山近家哉可居左小牡鹿乃音乎聞作宿不勝
鴨
山邊爾射去薩雄者雖大有山爾文野爾文沙
小牡鹿鳴母
足日木笑山從來世波左小鹿之妻呼音聞益
物乎

十六ベ 二ハサツヲノ子ラヒ
山邊薩雄乃禰良比恐跡小牡鹿鳴成妻之
母
山遠京爾之有者狹小牡鹿之妻呼音者乏毛
有香
秋芽子之散過去者左小牡鹿者和備鳴將爲
名不見者乏焉

アキハキノ　ベニハサヨレカゾツユヲワケツヽ
秋芽子之咲有野邊者左小牡鹿曾露乎別尓
ツヽドヒレケル　サケル　サキタル　（白宜）
嬬問四家類
ナエソレカノワビナキスナルケダシクモアキノヽハギヤ
奈何牡鹿之和備鳴爲成蓋毛秋野之芽子也
ニケクチルラレカ　（モレモシ）
繁將落
アキハキノサキタルノベニサヨレカハチラヽクヲシミナキユク
秋芽子之開有野邊左牡鹿者落巻惜見鳴去
ダモルスノモゴヨノナカ
田守廬兒
モラスコ
物乎
アレヒキノヤヽノトカゲニナクシカノコヱキカスヤモヤヽ
足日木乃山之跡陰爾鳴鹿之聲聞爲八方山

詠蟬

ユフカゲニキナクヒグラシコヽダクノヒゴトニキケドアカヌカモ
暮影來鳴日晩之幾許毎日聞跡不足可聞

詠戀蟀（キリヽスタ）

アキカゼノサムクフクナベワカヤトノアサチカモトニキリヽくスナク
秋風之寒吹奈倍吾屋前之淺茅之本戀蟀鳴

モ

毛

ヒグラシハ人丸集

カゲクサノネヒタルヤドノユフカゲニナクキリヽくスハ人丸集キケドアカヌカモ
影草乃生有屋外之暮陰爾鳴蟋蟀者雖聞不

（ユフクレ）　（コホロギ）

足可聞

ニハクサニムラサメフリテキリヽくスナクコヱキケハアキヅキニケリ
庭草爾村雨落而蟋蟀之鳴音聞者秋付爾家

（コホロギノ）

里

詠蝦

三吉野乃石本不避鳴川津諸文鳴來河乎淨清歟

神名火之山下動去水丹川津鳴成秋登將云（時ハ今ハ春ナレトモ秋ニハ）

鳥屋

草枕客爾物念吾聞者夕片設而鳴川津可聞

瀬呼速見落當知足白浪爾川津鳴奈里朝夕毎

香

詠鳥

上瀬爾河津妻呼暮去者衣手寒三妻將枕跡

妹手乎取石池之浪間從鳥音異鳴秋過良之

秋野之草花我末鳴舌百鳥音聞盪香片聞吾

妹

詠露

冷芽子丹置白露朝朝珠斗曾見流置白露

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47

ガラス使用

ユフタチノ　アメフルコトニ　カスカノノ　ヲバナガウヘノ
暮立之雨落毎一云打春日野之尾花之上乃
レラツユオモホユ　一云者十六　タチ苔ハ秋ノモノトセリ今モ七月下旬マデハアリ侍ルヲ此春ニテハ秋而ノ字ヲ添タチ立トセリ
白露所念
アキハギノ　エダモトヨメニ　ツユジモヤ　サムクモトキハ　ナリニケル　カモ
秋芽子之枝毛十尾丹露霜置寒毛時者成爾
ケル　カモ　ダハイリ
家類可聞
レラツユト　アキノハ　キトハ　コヒニダレ　ワクコトカタキ　ソガコヽロカモ
白露與秋芽子者戀亂別事難吾情可聞
共愛
人丸　ワカヤトノ　ヲバナオシナミオクツユニ　テフレワギモコ　チラヾクヲ
吾屋戸之麻花押靡置露霜爾手觸吾妹兒落巻
モ丸　三人部定　千ラサニ人ヲシテト君カテフレハソケルヲモミヽトヾ　取訓
毛將見
レラツユヲトラバ　ケヌベシイザヤコトモツユニ　キヘヌ
白露乎取者可消去來子等露爾爭而芽子之

遊將爲
アキタ　カルカリモホヨ　ツユワケヲレハ　コロモテサムシ　ミソチ
秋田苅借廬乎作吾居者衣手寒露置爾家留
コノゴロノ　アキカゼサムシハギノハナチラスレラツユオキニケラシモ
日來之秋風寒芽子之花令散白露置爾來下
アキタ　カルトヘデ　ウコクナリレラツユハ　オク木ダナレトツゲニ
秋田苅者手搖奈利白露者置穗田無跡告爾
キヌラシ　苦手　日本紀ニ和訓ヲ以假名ニ用ル此苦ト云字跡ト云字両字ヲトヽ云字ニ用タリ
來良思
ツケニケラシモ
一云告爾來良思母

詠山
ハルハモエナツハミドリニクレナヰノニレキニミユル　アヤヽカ
春者毛要夏者緑丹紅之綵色爾所見秋山可

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

聞

詠黄葉

ツマコモルヤ ノ、カミヤマツユニモミヂ ニホヒソメタリカ黄葉 延喜式神名帳未勘出雲国風土記神門郡八野

妻隠矢野神山露霜爾寶比始散巻惜

朝露爾染始秋山爾鐘禮莫零在渡金 アサツユニ ソメカレヌタルアキヤマニ カレグレナ フリソアリワタルカヘテ(ミナフテ欠元モ有ライリ)

右二首柿本朝臣人麿之謌集出

九月乃鐘禮乃雨毛沾通春日之山者色付丹 ナガツキノ カレグレノ アメニヌレトホリカスカノ ヤマハ イロヅキニケリ 鐘 ソホチツヽ

来

鴈鳴之寒朝開之露有之春日山乎令黄物者 カリガネノ サムキアサケノ ツユナラシ カスカノヤマヲ モミダスモノハ

右二首柿本朝臣人麿之謌集出

七日之暁露丹吾屋前之芽子乃下葉者色付尓家里 ニケリ

鴈鳴者今者来鳴沼吾待之黄葉早継待者辛苦母 カリガネハ イマハキナキヌ ワガマチシ モミヂハヤクセヨ

秋山乎謹人懸勿忘西其黄葉乃所思君 アキヤマヲ ユメヒトカクナ(言葉) ワスレニシソノモミヂバノ オモホユルキミ

大坂乎吾越来者二上爾黄葉流志具禮零乍 オホサカヲ ワカコエクレハ フタカミニ モミヂバナガル(散) シグレ(念度) フリツヽ

秋去者置白露爾吾門乃浅茅何浦葉色付爾家里 アキサレハ オクシラツユニ ワカカドノ アサヂ(末葉) ガ ウラハ イロヅキニケリ

コノゴロノアカツキヅユニ ワガヤトノ

七日之暁露丹吾屋前之芽子乃下葉者色付尓家里

鴈鳴者今者来鳴沼吾待之黄葉早継待者辛苦母 カリガネハ イマハキナキヌ ワガマチシ モミヂハヤクセヨ

秋山乎謹人懸勿忘西其黄葉乃所思君 アキヤマヲ ユメヒトカクナ ワスレニシソノモミヂバノ オモホユルキミ

大坂乎吾越来者二上爾黄葉流志具禮零乍 オホサカヲ ワカコエクレハ フタカミニ モミヂバナガル シグレ フリツヽ

秋去者置白露爾吾門乃浅茅何浦葉色付爾家里 アキサレハ オクシラツユニ ワカカドノ アサヂ ガ ウラハ イロヅキニケリ

拾雑秋 人丸

大坂古支紀 崇神代云里坂神 大坂神

暫往秋下 ワカ宿ノ庭ノアサヂカラハ 人丸 人丸集家持集

後撰秋下可考 カルヽヨヲアキヲアシヒノ ヌル〳〵ノ山ヲ

王松下 人丸ツガクヽ 黄葉殊ミ黄葉ホヒニソメタリカ黄葉過

続後拾 秋下
コモク山ノ六首
チフクモヲシ

三体詩ニ岸上紅梨
筆戦ノ初

イモカ ソデ キノ ヤマノ アサツユニ
妹之袖巻来乃山之朝露爾仁寶布黄葉之散
ユノ ヤマ(勇気抄 未考コモクルヤヨリ云ヒシモ云ヒトノ字ヌル 霧定 筑前ノ城山ヽ)
巻惜裳
モミチハノ ニホヒハ ケシキカレドモ(色ノモミチ中ニモ ケシキアリ) ナラシキ ヲタ ヲリカザ
黄葉之丹穂日者繁然鞆妻梨木乎手折可佐
(別ニ種チ カヤアリ)
寒
ツユゴモノ サムキユフヘノ アキカゼ ニ モミチ ニ ケリモ ツマナシノキ
露霜聞寒夕之秋風丹黄葉爾来毛妻梨之木
ハ
者
ワカヽトノ アサチ イロツクヲナ バリノ
吾門之浅茅色就吉魚張能浪柴乃野之黄葉
(宅田抄 大和)
チルラシ
散良新

カリカ子ダキヽツル ナヘニ タカヽトノ、ウヘノ クサノ イロ
鴈之鳴乎聞鶴奈倍爾高松之野上之草曽色
ツキニケル
付爾家留
ワカセコガ ミロタヘゴロモ ユキフレバ ウツリヌヘクモ モミヂ ケリ
吾背兒我白細衣往觸者應染毛黄變山可聞
アキカゼノ ヒニケニフケバ ミツクキノ(筑前ヽ) ヲカノ コノハモ イロツキニケリ
秋風之日異吹者水莖能岡之木葉毛色付爾
家里
カリカネノ キナキシ(鳴シニツレテ 紀伸) ヨシカラコロモ タツタノ ヤマハ モミヂソメタリ
鴈鳴乃來鳴之共韓衣裁田之山者黄始有
カリカネノ コエキクナヘニ アスカノ ヤマハ モミヂソメ
鴈之鳴聲聞苗荷明日從者借香能山者黄始
(奥ニ折ニカリカノ山トヨメルハ誤ヽ)
南

後撰秋下
キクル大ニ モミチセ
ケリ

拾雑秋
アキカセシ
ヲカノ木ハハ

王都
カナヤヘニ
ヌラタノ山モミチセ
ヌラム

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

新古冬　公九

シクレノアメマナクニ助フレハ　キノハモアラシニカ子テ
四具禮能雨無間之零者眞木葉毛爭不勝而
仏九ロツキニケリ　時雨ノ雨ノタエマナクフリ山城ノ常盤ノ森ノ木葉ハ紅葉スヘキヤウナシ　能因
色付爾家里　是ハコノカノ手ノコトクニ檜木ト思ヒテノ御歌ニ眞木ハヨキ木ニマキ立山ニ今又檜ハモミチスヘキニアラス
イチシルクシクレノアメハフラナクニオホキノヤマニハイロツキニ
灼然四具禮乃雨者零勿國大城山者色付爾
ケリ　諸大城山者筑前国御笠郡之大野山頂号曰大城者也　拾
家里　才六三ル伊勢ノアカノ松原ニアラス是ハ筑前ナルヘシ才十七モアリ
カセフケハモミチチリツヽシラクモワカニツバラハキヨカラナクニ
風吹者黄葉散乍小雲吾松原清在莫國　紅葉ノチリカフラン為ニ
モノ　コモリオリフシテケフミレハカスカノヤマハイロツキニケリ
物念隠座而今日見者春日山者色就爾家里　スカヤ
ナカツキノミラツコオヒテアシヒキノヤマニモミチムマクモ助
九月白露負而足日木乃山之將黄變見幕下
ヨシ
吉

和名云伊賀国名張郡夏身

岸司十七野司　野山司一下注松殿本京地本基長ノ本皆同之其理尤可也　檀同

イモガカリト　ウミニクラオキテイコヤマヲチコエクレハ　モミチチリシヽ
妹許跡馬鞍置而射駒山擊越來者紅葉散筒
モミチスルトキニナルラシツキヒト四世六ノカツラノエタノイロツクミレハ　消色何ト云乎
黄葉為時爾成良之月人楓枝乃色付見者
サトモケニシモハオクラシタカ二トノヤカノ高圓ノ
里異霜者置良之高松野山司之色付見者
アキカセノヒニケニフケハツユシモミレヤミ　ハキノシタハイロツキニケリ
秋風之日異吹者露重芽子之下葉者色付來
アキハキノシタハモミチヌアクタニノツキノヘユケハカセヲハヤミ　ケイタニモ
秋芽子乃下葉赤荒玉之月之歴去者風疾鴨
ニソカミミナフチヤマハケフモカモシラツユオキテモミチチルラム
真十鏡見名淵山者今日鴨白露置而黄葉將
散
ワカヤトノアサチイロツクヲナツミノ吉野ノナツミ綸ヘ
吾屋戸之淺茅色付吉魚張之夏身之上爾四

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

具禮零疑（グレフルラシ　コヽモ千日ク疑ノ同ニハ乃倉）
カリガ子ノ　サムクナクヨリミツクキノ　ヲカノ　クズバ　ハ　イロヅキニ　ケリ
鴈鳴之寒鳴從水莖之岡乃葛葉者色付爾來
アキ　ハキノ　シタバノ　モミヂ　ハナニ（秋千草）　ツグトキスキユケバ　ノチコヒ
秋芽子之下葉乃黃葉於花繼時過去者後將
ム　カモ　（イカニセント）
戀鴨
アスカ　カハモミヂバナガルカツラキノヤマノ
明日香河黃葉流葛木山之
（家集）イモカ　ヒモトクトームスニテ　タツタ　ヤマニイマコソ　モミチ　ハシメタリ
妹之紐解登結而立田山今許曾黃葉始而有
ケレ
（ヒモ立テトク物ニハヒモテトクトテ立トムスビツヽケクリムスニテトクト立田山ト云ヘリ
後撰拾下ニ妹カヒモトクトムスフト立田山今ソモミチノ錦オリケル是ハトクトテモ信テモ心ト」ハ易シ得」
喧サワク日記　集中此外ニサヘワクヨシル処ナシ若ハ之ノ下ニ日ノ字落ケルカシ」ナラハサキニ日ヨリートヨムヘシ
家禮
カリガチノ　サハギニシ　ヨリカスカ　ナルミ　カサノヤマハ　イロツキニ　ケリ
鴈鳴之喧之從春日有三笠山者色付丹家里

コノゴロノ　アカツキヅユニ　ワカヤドノ　アキノ　ハギハライロツキニ　ケリ
比者之五更露爾吾屋戸乃秋之芽子原色付
ニケリ
爾家里
コフサレハ　カリノ　コエユクタツタ　ヤマニ　グレニ　キホヒイロツキニ
夕去者鴈之越往龍田山四具禮爾競（爭）色付爾
ケリ
家里
サヨフケテ　シクレ　ナ　フリソアキハギ　ノ　モトハ（下葉）　ノ　モミヂ
左夜深而四具禮勿零秋芽子之本葉之黃葉
チラマクオシモ
落巻惜裳
フルサトノ　ハツモミヂバヲ　タ　ヲリモ　テ　ケフ　ゾ　ワガタル（コレ）　ミヌ
古郷之始黃葉乎手折以而今日曾吾來不見
ヒトノ　タメ
人之爲

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

君之家乃之黄葉早者落四具禮乃雨爾所沾
キミカ イヘノ モミチバハヤシ（下ヨ光）チリニ（ヤ）シグレ ノ アメニ ヌレニケ
ラ レ モ （字脱半又行字歟）

良之母
ヒトヽセニフタヽビユカヌ アキヤマヲ コヒニ アカス スゴシ ツルカモ
（再来又秋ト云心）

一年二遍不行秋山乎情爾不飽過之鶴鴨
（古本ニ山ヲ田ニ作ル也）（古本ニ田ヲ山ニ作ル也）（アカテ人丸集）

詠氷田
アヒキノ ヤマダ ツクルコ ヒデズ トモミレメダニハヘヨ モルト
（鹿ヲ鳥ノ守トシテハ公マヒキ ミルカゴ）

足曳之山田佃子不秀友繩谷延與守登知金
サ ナシ カノ ツマヨブヤマノ ヲカベ ナル ワサダ ハ カラジ ニモ
（古本ニ田ヲ山ニ作ル也）（カワズ）

左小牡鹿之妻喚山之岳邊在早田者不苅霜
（鹿ノ妻コフサバリニナラシアハヒテ）

ハ フルトモ
（仁徳ノ御歌ニ及フ処ニ）

者雖零
（オクトニ新古モ）

我門雨禁田乎見者沙穂内之秋芽子爲歌寸
ガカド ニ ドニ モルタ ヲ ミレハ （古字トニヤ）サ ホノウチノ アキハギ ス ヽキ

詠河
コフサラズ カハヅ ナクナリ ミ ワガハノきヨキセノキトヲ キクハシ ヨシ
（サラテ六）

暮不去河蝦鳴成三和河之清瀬音乎聞師吉
（カリ）（セヽ）（オト）（キヽハ歟）

毛
モ

詠月
アメノウミニツキノフネウケカツラカチカケテ コクミ ツキヒトヲトコ
（槽男）

天海月舩浮桂楫懸而搜所見月人壯子
コノヨ ラ ハサ ヨ フケヌ ラ レ カリガネノ キコユルソラニ ツキ
（ユ）

此夜等者沙夜深去良之鴈鳴乃所聞空從月
（夜半ニナリヌラム）

立渡
タチワタル
（渡宣）

所念鴨
オモホユル カモ
（サカリナラン）

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

吾背子之挿頭之芽子尓置露乎清見世跡月者照良思

無心秋月夜之物念跡寐不所宿照衣本名

不念爾四具禮乃雨者零有跡天雲霽而月夜清烏

芽子之花開乃乎再入緒見代跡可聞月夜之白露乎玉作有九月在明之月夜雖見不飽可聞

詠風

秋山之木葉文未赤者今日吹風者霜毛置應久

詠芽子

高松之此峯迫爾笠立而盈盛有秋香乃吉者

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47

ガラス使用

詠雨

一日千重敷布我戀妹當爲暮零禮見

右一首柿本朝臣人麿之歌集出

秋田苅客乃廬入爾四具禮零我袖沾干人無

二

玉手次不懸時無吾戀此具禮志者沾乍毛

將行

黃葉乎令落四具禮能零苗爾夜副衣寒一之

宿者

詠霜

天飛也鴈之翅乃覆羽之何處漏香霜之零異

牟

秋相聞

金山舌日下鳴鳥音聞何嘆

誰彼我莫問九月露沾乍君待吾

秋夜霧發渡夙夙見妹形矣

秋野尾花末生靡心妹依鴨
秋山霜零覆木葉落歳雖行我忘八

右柿本朝臣人麿之歌集出

寄水田

住吉之岸乎田爾墾蒔稲乃而及苅不相公鴨
釼後玉纏田井爾及何時可妹乎不相見家戀

將居

秋田之穂上爾置白露之消吾者所念鴨

秋田之穂向之所依片縁吾者物念都禮無物

乎

秋田刈借廬作五百入爲而有監君叫將見依

毛欲將

鶴鳴之所聞田井爾五百入爲而吾客有跡於

妹告社

春霞多奈引田居爾廬付而秋田苅左右令思

良久

姓氏錄左京諸蕃下橘守三宅連同祖天日桙命之後也

新古秋上　人丸

露霜ノ證哥

才八巳出

三志四年ノ冬家持ヨメル哥也

新室ノ哥一　家持

タチハナノ　モリベノ　イヘノ　カドタ　ワセ　カリトキスギヌ　コ
橘乎　守部乃　五十戸之　門田早稻苅　時過去不
（考證紀戸令ニ五十戸里トアレハサトヨムヘシ）
來跡爲等霜　スラ　ユモ　コトスルラシ　ユキケカラコ　ユキハ
（早田ヲ苅時スクルヲ才又ハ行末モオルマヂキヲ可知）

寄露

アキハギノ　サキチルノベノ　ユフツユニ　ヌレツヽキ　ニホヨハ
秋芽子之　開散野邊之　暮露爾　沾乍來益夜者
（考證紀ニ家持又ハ家持ノ）

フカクナリ　トモ　ミチハシバ　イロツキアフ　アキノツユジモナ　フリシケヨモガ　タモトヲ　ヽカヌコヨヒ
深去鞘　（幕水左本幕中或古今萩ノ花ケル玄小野ノ露霜ニヌレテラユカムサヨハフケ尺）
色付相　（紅葉）　秋之露霜　莫零　妹之　手本乎　不纏今夜
ハ

アキハギノ　シタヘニ　キキタルミラツユノ　ケカモミナヽシコヒニアラ
者　秋芽子之　上爾置有　白露之　消鴨死　（戀ノアラズハ）　猿戀爾不
（衍）

ズハアラシヨリハ

有者　ドノアキハギノ　ウヘニオクツユノイチジロクモワガコヒメヤモ
吾屋前秋芽子上置露市白霜吾戀目八面
（ハウキサヘ）

アキノホ（稻）ヲ　レノサヽニ　オレナミニオクツユノケ　カモミナヽシコヒツヽアラズ
秋穗乎之　（シテキ）　努爾押靡置露消鴨死益戀乍不有
（シキリニ）

ハ

者　ソユヱモニ　コロモデ　ヌレテイヘダニモ　イモガリヤカナヨハフケ
露霜爾衣袖所沾而今谷毛　妹許行名夜者雖
ヌトモ

深

アキハギノ　エダモトヲヲ　ニ　オクツユノ　ケカモミナヽシコヒツヽ
秋芽子之　枝毛十尾爾置露之　消毳死猿戀乍
アラズハ

不有者

秋芽子之上爾白露毎置見管曽思努布君之
（アキハギノウヘニシラツユヤクコトニミツヽソシノブキミガ）
光儀乎
（スガタヲ）

寄風

吾妹子者衣丹有南秋風之寒比来下著益乎
（ワギモコハキヌニアラナムアキカゼノサムキコノゴロキテミヨヤ）
（アカシ）
泊瀬風如是吹三更者及何時衣片敷吾一将
（ハツセカゼカクノミフクヨハフケバイツニデカコロモカタシキワガヒトリ子ム）
宿

寄雨

秋芽子乎令落長雨之零比者一起居而戀夜
（アキハギヲチラスナガメノフルコロハヒトリオキ井テコフルヨ）

曽大寸
（ソオホキ）
ナガツキノシグレノアメノヤマキリテ六
九月四具禮乃雨之山霧
キリノケブキ
霧煙十吾告曽誰乎見
（キリ烟）
者将息
（ヤスマム）

一云十月四具禮乃雨降
（カミナヅキシグレノアメフリ）

寄蟋蟀
（キリ〳〵ス）

キリ〳〵スノチヨロコヘルアキノヨヌルニハナニヲ待散秋夜乎寐驗無枕與吾者
（コホロギ）

寄蝦

朝霞鹿火屋之下爾鳴蝦聲谷聞者吾将戀八
（アサガスミカビヤガシタニナクカハヅコヱタニキカバワレコヒメヤ）

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

方

寄鴈

出去者天飛鴈之可泣美且今日且今日云二
年魯經去家類

寄鹿

左小牡鹿之朝伏小野之草若美隠不得而於
人所知名
左小牡鹿之小野草伏灼然吾不問爾人乃知

良久

寄鶴

今夜乃曉降鳴鶴之念不過戀許増益也

寄草

道邊之乎花我下之思草今更爾何物可將念

寄花

草深三戀多鳴屋前芽子見公者何時來益牟
秋就者水草花乃阿要奴鹽思跡不知直爾不

サレハ
相在者
ナニストカキミヲイトハムアキハキノ
何爲等加君乎將厭秋芽子乃其始花之歡寸
モノヲ　三之日此方ヨリ云ワケ
物乎
コヒコロヒハシヌトモイチシロクイロニハイテシアサカホノハナ
展轉戀者死友灼然色庭不出朝容貌之花
コトニイテハイハヽイヒシヨシアサガホノホニハサキノデズ　コヒヌスルカモ
言出而云忌染朝貌乃穗庭開不出戀爲鴨
カリガネノハツコエキヽテサキデタルヤドノアキハキニコ
鴈鳴之始音聞而開出有屋前之秋芽予見來
ワガセコ
吾世古
サヲシカノイルノノスヽキ
左小牡鹿之入野乃爲酢寸初尾花何時加妹

カ　スマクラニセム
之將手枕
コフルヒノケナガクアレハ　（三天ナノソノニハ非ス
戀日之氣長有者三苑圃能辛藍花之色出爾
ケリ　スヘテ紫数ナト色ノスクレタルハ思ヒ甚キニタトヘメリ　今ノ雑公花ト云フ　江ノ花
來
ワガサトニイヘサクハナノヲニナヘニ　（敝之水戸
吾郷爾今咲花乃女郎花不堪情尚戀二家里
ハギノハナサケルヲミレバキミニアハデヒトコトモヒサニナリニケルカモ
芽子花咲有乎見者君不相真毛久二成來鴨
アサツユニサキスサムビタルツキクサノヒトモニケヌベクオモホユ　鴨瓜艸
朝露爾咲酢左乾垂鴨頭草之日斜共可消所
ナガキヨヲキミニコヒツヽイケラズハサキテチリニシハナニアラマシヲ　本草綱目十六鴨跖草狀名芀鴨舌艸　處處有之叢生竹下小竹鴨草　細竹葉菜也沈竹葉也碧蟬花也藍姑艸藏器云鴨跖庄江東淮南平地葉如竹高一二尺花深碧好為色有角如鳥嘴○陸佃埤雅碧竹子也竹鴨草及紙羊皮灯青碧如篁也○和名抄云鴨瓜艸　本艸拾遺碧竹子小竹鴨草　細竹葉菜也沈竹葉也碧蟬花也藍姑艸藏器　長夜乎於君戀乍不生者開而落西花有益乎
在屋

古今墨滅弁ズベホニハ出スベキ悪度ルカナ

ヒトヒアラバ 神代紀 仲哀 伊弉諾尊ミコトモチテ 女命花ヒトフサタケ時ニナリ

玉迫一里人不知カクレヒハモ

ワギモコニアフサカヤマノヒノスソ
吾妹兒爾相坂山之波爲酢寸穗庭開不出戀
ワタルカモ 戀寄花トヒハシノミテハ花トヨカタシ檜皮ナトイヘル皆皮ヲハメトヨメリ
渡鴨 チドリ

イサナミニイヒモ ミテヒガアキハキノ
率爾今毛欲見秋芽之四搓二將有妹之光儀
イサヽカニイヒモ 校本タチマチニ ミナヒニ アラム イモガスガタ
乎
アキハギノ 近江成ヘル大木廿三 ハナノノス、キ ホ ニハサキイデズ コヒ
秋芽子之花野乃爲酢寸穗庭不出吾戀度隱
ツマハモ 尋子蔡ル心詞ヘ
孀波毋
ワカヤドニ サケルアキハギ チリスギテ ミニナルマデニ キミニ アハ
吾屋戸爾開秋芽子散過而實成及丹於君不
ヌカモ 「カキ」
相鴨

ワカヤトノハキ サキニケリ チラヌマニ ハヤキテミベシ
吾屋前之芽子開二家里不落間爾早來可見
ナラノサトビト 八卅七
平城里人
イヘバヒトノ ニオヒタルカホバナノ ハナニシアリケリ アリツヽミレハ
石走間間生有貌花乃花西有來在筒見者
アリテミベシイトヽメツラシトヘル
フチハラノフルサトノ アキハ サキテチリニキ キミマチカネテ
藤原古郷之秋芽子者開而落去寸君待不得
高市郎是ハ元明天皇和銅三年藤原宮ヨリ奈良ヘウツラセ玉ヒテ後役藤原ニ殘リ居ル人ノ奈良ノ人ヲミテヨメルナリケル成ヘシ
而
アキハギヲ チリスキヌベミタ ヲリモテミレドモサビシ キミニシアラ
秋芽子乎落過沼蛇手折持雖見不怜君西不
子ハ
有者
アレタサキユフヘハ ケヌルツユクサノ水戸 乃水戸ハ露ヲ人ノ様ニトタベ月卅ノ条ニ末ニヨシ云
朝開夕者消流鴨頭草可消戀毛吾者爲鴨
キコヒモ ワレハスルカモ

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

朝野之尾花苅副秋芽子之花乎葺核君之借
（アキツノノ大和宇野郡ニアリ　ハナカリソヘ　アキハギノ　カリフキカヘシ一頃田主ノ妻ヲ　サキヲミセ）

盧
（サキヌトモシラス　アラハ　モツミテキカシ又モダモ　アラム　コノアキハギヲ　三世ツヘモトナ）

咲友不知師有者默然將有此秋芽子乎令視
（夜万支喜七）

菅本名
（ヨレナレトモ）

寄山

秋去者鴈飛越龍田山立而毛居而毛君乎思
（アキサレバ　カリトビコユルタツタ　ヤマタチテ　モヰテモキミヲシ）

曽念
（モフ）

寄黄葉

我屋戸之田葛葉日殊色付奴不座君者何情
（ワガヤトノクズバ　ヒニケニイロヅキヌ　キマサヌキミハ　ナニコヽロ）
（来ノ誤カ）

曽毛
（ゾモ）

足引乃山佐奈葛黄變及妹爾不相哉吾戀將
（アシヒキノ　ヤマサナカツラモミヅ　ツテイモニ　アハズテヤ　ワガコヒヲラム）

居
（モニヂバノ　スギカテヌ　コヲ　ヒトツヽト　ミツヽヤ　アラム　コヒヲレキ）

黄葉之過不勝兒乎人妻跡見作哉將有戀敷
（過ヒスギヌル　ふニ思スギ雑キ）
（モノヲ）

物乎

寄月

於君戀之奈要浦觸吾居者秋風吹而月斜烏
（キミニコヒヽナ　エウラブレヽバ　アキカゼフキテ　ツキカタブキヌ）
（サヽヤキ）

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

同上　キミシキマサハ

秋夜之月疑意君者雲隠須臾不見者幾許戀
アキノヨノツキカモキミハクモガクレシハシモミネハタヘコヒ
敷　嘗
シキ

ナガツキノアリアケノツキヨ（程久有テ）アリツヽモキミガキマサハワレコヒ
九月之在明能月夜有乍毛君之来座者吾将
ムヤモ
戀八方

寄夜　（オトヨトカ音通ヨコヒヤ）
シコヒゴトヤスレドアキカゼノサムクフクヨハキミヲ
忍咲八師不戀登為跡金風之寒吹夜者君乎
レ於六帖人丸歌集
レソオモフ
之曽念

ワビヒトノアナコヽロナトオモフラムアキノナカヨヲチヌメルテノミ（覽氏）
感者之痛情無跡将念秋之長夜乎寐師耳
ヒトヤスメ

（戀ヤ又人ヨリ先ニアテ空ト思フヤトヨメリ）恋ひび人ゝ

玉戀二人先ヒトイ

色葉ト云詞ニハヨメテ出露ヲ色ヅク葉ナリ

アキノヨヲナガシトイヘドツモリニ助コヒソツクセバミヂカカリケリ
秋夜乎長跡雖言積西戀盡者短有家里

寄衣

（オニミリアキツケノ衣ハ）ニホヘルコロモワレハキル（ヒア）カ子（微仲）
秋都葉爾爾寶敞流衣吾者不服於君奉者夜
モ
毛著金（カミ）（吉衣ラセテ君乃夜ヨリ長身ミソヘラレカシ）

問答

タビニスラヒモトクモノヲコトシケミ（カ）ロ子クロスルナガキヨノヨヲ
旅尚襟解物乎事繁三九宿吾為長此夜
レクレフルアカツキヨヒモトカスヒ（コヲフヨキミト）フタリトレモノヲ
四具禮零曉月夜紐不解戀君跡居益物
モミヂバニオクシラツユノイロハニホヒ（イデシ）トオモヘバコトノ
於黄葉畳白露之色葉二毛不出跡念者事之
（ヘ言シ）

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

繁家ロ（シゲケク）
アメフレハ　タキツヤマガハイハニフレキ（君ヲ心ニカケタカスルヲ心ハモタスト）
雨零者　瀧都山川於石觸（リ）君（ミヲ奉ルヲ心ハモタスト）
右一首不類秋謌而以和載（ス）之也

警喩歌

祝部等之齋經社之黄葉毛標繩越而落云物（チルトイフ）
ハフリラカ　イハフヤシロノ　モミヂバモ　シメナハコエテ　チルテフモノ
乎

旋頭歌

鰋鰺之（コホロキノ）　ソガヒカノヘニ（トコロ）　ナキツ、モトナ　オキ井ツ、キミニコフルニ
鰋鰺之　吾床隣（オリ）爾　鴫乍本名　起居管君爾戀爾

拾雜秋レメンハユテヌトイフモノヲ

トヨリ上へ返メ心ウベ

新ヌニ家持卷十ノ末ニイマダクモラヌハト松ノ原ニアワユキノ

イサモカニテアヌニ
宿不勝爾
ネカテス、キホニハサキヲデ奴コヒヲ
皮爲酢寸穗庭開不出戀乎吾爲玉蜻直一目
ノミミニヒトユエニ
耳視之人故爾（人ナルニ）

冬雜歌

ワカソデニアラレタハシル（ソノ雪ノ）キカクニケズトモアレヤイモガニムタメ（ケタズテアラン古帖）
我袖爾雹手走卷隱不消有妹爲見
アシヒキノヤマカモタカキニキモクノ（足引ノ山岳ノ）ケタズヤアラン
足曳之山鴨高卷向之木志乃子松二三雫落
ニキモクノ（雲居又ミ）ヒバラモイマタクモ井ヲバコツガスエロ（アハユキノフル）
卷向之檜原毛未雲居者子松之末由沫雪流（ハ）

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

アレヒキノヤニチモヘラス　ヘラカ　レノエダモ　トヨ　ノ　ニ　ユキノフレ、ハ

足引山道不知白杜枝母等乎平爾雪落者

人丸集　エダモ　タワタ　古寫未考　景行天皇御製ヌミモヘクリノ山シヽカシノ

或云枝毛多和多和

右柿本朝臣人麿之歌集出也但一首後脫夫

或本云三方沙彌作

詠雪

ナラヤマノ　ミネモキリアフ　ナホキラフ　諾

奈良山乃峯尚霧合宇倍志社前垣之下乃雪

ハケズケレ

者不消家禮

コヲテフラハ　ソデサヘヌレテ　トオルヘクアラムヲユキノ　フリナヘ

袖副沾而可遍將落雪之空爾消二管

ヨヲ　サムミ　アサド　ヲ　アテテイテミレハ　ニハモハダラニ　三

夜乎寒三朝戸乎開出見者庭毛薄大良爾三

ユキフリタリ　ニハモ　ホドロニ

雪落有

一云庭裳保杼呂爾雪曾零而有

コフサレハ　コロモデ　サムシ　タカミトノ　ヤマノキ　コトニユキゾ　フリタル

暮去者衣袖寒之高松之山木毎雪曾零有

ワガソテニ　フリツルユキモ　ナガシ　テ　イモガ　タ　モトニイ　発語

吾袖爾零鶴雪毛流去而妹之手本伊行觸糠

アハユキハケフハナフリソ　ソデニキホサム　ヒトモ　アラ

沫雪者今日者莫零白妙之袖纏將干人毛不

ヌカ　ヌ

有惡

ハナハタモ　フラヌ　ユキユヱ　コヒタクモ　アルカ　ソラハ　陰天

甚多毛不零雪故言多毛天三空者隱相管

ワガセコヲ　ケフカケフカト　イデミレハ　アハユキフレリ　ニハモ　ホ

吾背子乎今且今且出見者沫雪零有庭毛保

家持集

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47

ガラス使用

新後拾遺ニ入ル

ド口ニ

朽呂爾　アラヒキノヤマニ　ヒロキハ　ワカヤト・ニ　キノフノクレニフリシ　ユキカモ・

足引山爾白者我屋戸爾　昨日暮零之雪凝哉

詠花

タカソノノ、ウメノハナソモ　ヒサカタノ　キヨキツキヨニ　コソヲ　チリクル

誰苑之梅花毛　久堅之　清月夜爾　幾許散来

ウメノハナ　ニツサクエダヲタ　ヲリテハ　ツトトナヅケテ　ヨヲ梅ニソヘテム

梅花先開枝手折而者　裏常名付而　與副手六

カモ

香聞

タカソノノ、ウメニカ　アリケム　コノタクモ　サキニケル

誰苑之梅爾可有家武　幾許毛開有可毛　見我

オホキノ

欲左右手二

キテミベキ　ヒトモ　アラナクニ　ソギヘナ　ナルシメノハツハナテリヌト　モヨレ

来可視人毛不有爾吾家有梅早花落十方吉

ユキサムミ　サキニハサカズ　ウメノハナヨレコノコロハ　サテモアルガ子

雪寒三　咲者不開梅花縦　比来者然而毛有金

サキハヒラケヌ夫

詠露

イモガタメホツエノウメヲ　タヲルトテ　ハレ

爲妹末枝梅乎手折登　波下枝之露爾沾家類

カモ

可聞

赤宮女御集ニ女御ノ御カタニ――

ミフノミ――　梅花　大木　能因

折袖ヲ――　イルニモ些ノコトヨリ

詠黄葉

ノノ　アサヂ　イロヅクアラチ　ヤマ　ミチノ　アハユキサムクフル

八田乃野之浅茅色付有　乳山峯之沫雪寒零

良之

ラシ

和名抄下郡矢田アリ是ヘル

加賀江沼郡ニモアレド大和ヨリ越前ノアラチ山ヲ思ヒヤリテ成ヘシ

越前敦賀郡

後撰春上　人モアラナクニヤトノ　オリワクレテ

凡春上　人丸

新古今　サクラハナ　人丸

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47

ガラス使用

古点ニヨリカクシ

詠月

サヨフケバ　イテコムツキヲ　タカヤマノ　三子ノミラクモカクシテム　カモ　雲半

此等八ノ事ヲ古集ヨリ七ノ雜ヲトニ入ヘキ事ノ但シ雲ノ字雪ヲ誤レル乎六帖ニハ雲ノ歌ノ中ニ入レリ

冬相聞

フルユキノソラニ　ケヌベクコヲレドモ　イヤシケニ　モ　ナヲ　ソヘスウシル体

零雪虛空可消雖戀相依無月經在

アハユキノチ　サトフリシキコヒシ　クノケ　ナカキ

沫雪ノ千里零敷戀爲來食永我見偲

ハヘニ　重　ケナカキ

右柿本朝臣人麿之歌集出　二首並也

寄露

序手也　サキ　オデタルウメノ　カ　ミヅエニオクツユノ　ケヌベクイモニ　コフルコノゴロ

咲出照梅之下枝置露之可消於妹戀頃者

寄霜

ハナハダモ　フケテユクナリ　ミチノベノ　ユ　ザサノ　ガ　ウヘニ　レモフルヨヲ

甚毛夜深勿行道邊之湯小竹之於爾霜降夜烏

寄雪

十カテ雪ノ三見ユ

サヽノハニ　ハダレ　フリオヒケナ　バ　カモワスレムトイヘバ　妹カ名同

小竹葉爾薄太禮零覆消名羽鴨將忘云者益

オモホユ

所念

ミシ　アラレ　フリチタス　カセ　フキサムキヨヲ　ヤ　ハタノ　ニ　ヨヒワカヒトリ子　ム

霰落板敢風吹寒夜也旗野爾今夜吾獨寐牟

ヲナ　ハリノ　玖ノ　ギ　雪ノ白木ニ　フリヲフレラユキノ　又ノ意ニ　イチジロクシモコヒ　ム・ソレ

吉名ニ張乃野木爾零覆白雪乃市白霜將戀吾

大和中池郡

六帖ニモ夜間トアリ

千載後撰長寿ノ詞ニコトシハ野木ニ吹カセノ

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』 請求記号 857-47

ガラス使用

鴨（カモ）
一眼見之人爾戀良久天霧之零來雪之可消所念（ヒトメミレヒトニコフラクアマギラフルユキノケヌベクオモホユ）
思出時者爲便無豐國之木綿山雪之可消所念（オモヒイヅルトキハスベナミトヨクニノユフヤマユキノケヌベクオモホユ）
豐後速見郡ニアリ
如夢君乎相見而天霧之落來雪之可消所念（イメノコトキミヲアヒミテアマギラフルユキノケヌベクオモホユ）
吾背子之言愛美出去者裳引將知雪勿零（ワカセコガコトウツクシミイデユカバモヒキモラサムユキナフリソネ）
梅花其跡毛不所見零雪之市白兼名間使遣（ウメノハナソトモミエズフルユキノイチジロクコヒバイモガナ）

者（ハ）
一云零雪爾間使遣者其將知名（フルユキニテツカヒヤラハソレシリナムナ）
天霧相零來雪之消友於君合常流經度（アマギリアヒフリクルユキノケヌトモキミニアハムトナガラヘ）
雪ト合セモキユレトモキミニアハムトモキユメトモ
窺良布跡見山雪之灼然戀者妹名人將知可聞（ウカラフトミルヤマユキノイチジロクコヒバイモガナヒトシレラムカモ）
今世ニモ同ク見ル山トノ名所ニスルハ誤リ

海小船泊瀨乃山爾落雪之消長戀師君之音（アマヲブネハツセノヤマニフルユキノケナガクコヒシキミガオトヅレ）
舟ヲトムルヲ云ズル
魯爲流
和射美能嶺往過而零雪乃（ワザミノネユキスギテフルユキノ）
美濃ヘ行ケバ
雨（ニ）
美濃ニアリ和ニ非ズ

857
(別置)
47

寄花

ワガヤド ニ サキタルウメヲ ツキヨヨ ミヨヨ ヨナ〳〵ミセム キミヲ(ヨ)

吾屋戸爾開有梅乎月夜好美夕夕令見君乎

(ソ社ヲ) ツヤ

祚待也 (盖今)

コソマテ

寄夜

アシヒキノ ヤマニタカゼハ フカ子ドモ キミナキヨヒハ カヨヒテサム(ム)モ

足檜木乃山下風波雖不吹君無夕者豫寒毛

(君キミノ)

ママノ(ヲ)ハヽ

助字カ

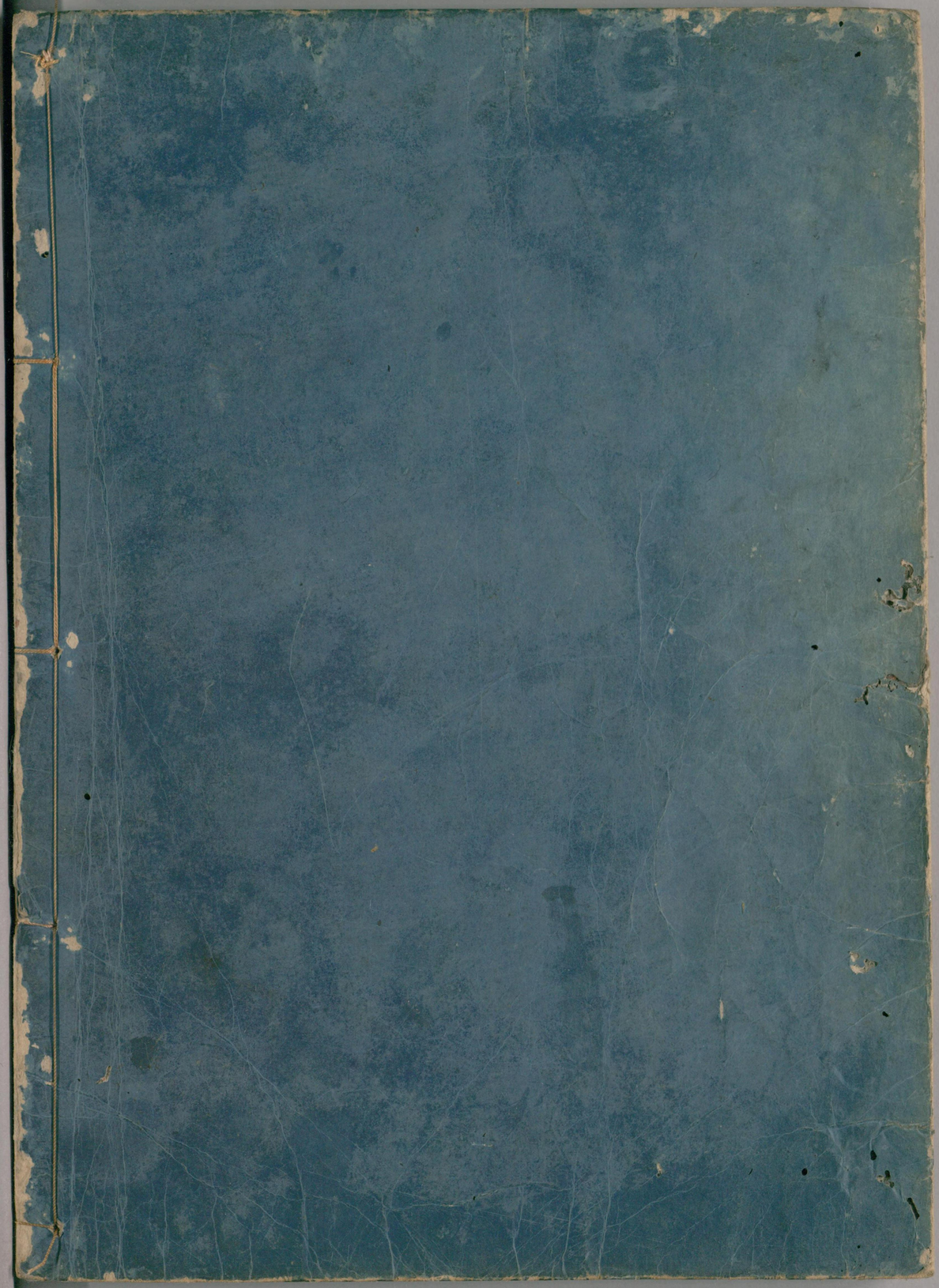
新勅撰四 人丸 キミカヨヲハ集同

続古春上 人丸 月カケヨナクキリニミム人モアラナ

萬葉集巻第十

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』 請求記号 857-47

ガラス使用